亦 ーハリミヤ さたむ

卫夕23市 年 のヤヨイ (旧暦3月) ハヒ 日·朔日

キヨヒト(後のニニキネ) がミコトノリを発しておっしゃったのでした。

のミヤ らたに開き始め開拓する)のミヤと名付けましょう。 決めました。これから原野を開墾してゆきますから、ミヤの名は、ニハリ(新 立てたいと願うのです。 せたものでもあったからです。そして、 たいと思います。 策の十分さをです。 の故国のイツモ(出雲)のクニの事を思い出します。オホナムチのヤエガキ 『オオモノヌシ (2代目) いました。 (杵築大社、 そこで、 それは、 通 称 • 諸国を見巡るうちに、 そのため、 の西に位置する原野に、 初代アマカミのクニトコタチさんの功績を発展さ 出雲大社)のことです、そして、 豊かさと安心とを実現できた治世の事を目標に のクシヒコの、 根拠地のミヤには、 今の現在に、 偉大なヲヤ 良き建築地を見定めました。 初めにミヤを建築しようと 私も新たな功績を打ち 良き場所を選びたい (親)のオホナムチ 国民への救荒 対

現在での最も良い功績を積んで行く道筋でしょう』 ヒコは「ミヤツクリノリ」を、今また、定めてもらいましょう。 (親) であるオホナムチからの伝承も有りましょうから、 それが、

キヨヒト(のちの二二キネ)の、 は、 「ミヤツクリノリ」を定めました。 ミコトノ リを受けて、 クシヒコ (2代目

クシヒコの「ミヤツクリノリ」の新設定の内容はこのようでした。

建築は、 U (ソマ・きこり・ 樵)が樹を切りだすことから始まります。

ってから、 でください。この日に、 (キ・樹) を伐 伐採の開始を始めます。
この日に、手オノ(斧)での伐(き)り初(そ) (5) る日には、 Ψ ◆★ (井ヤヱ・41日目) めの行事を行 の日を選ん

ア・19日目) ま(ネ・ 次に、 の 隅の柱をミナミ・ の日が良いです。 イシスエ(石据え、 礎石の上に、 キタ・ヒガシ・ニシの順に立てます。 礎石) を定める日は、 柱を立てます。 初めに中柱を そし

中柱を先に立てて、 シマカラフ・カト(後の羅生門に相当) 隅の柱を後で立てます。 です。シマカラフ・カトは、

ります。 メの8です。 中心)への感謝を表します。 の6を合わせた11と、 小豆飯) の感謝です。 また、 を供えて、 ムネアケ(棟上げ) モチ それはキツヲサネ(東西中央南北) 8回のカシハ (餅) は、 は、 3回のカシハ ツアア(13日目)にすると良い (太陽) 365日より一つ多い366個を供えます。 アモトのそばにあって守るのがトホカミアヒタ (カシ の祝いをする準備が出来たわけです。 ۲ ハテ・拍手)を打って、 (カシハテ・ ツキ (月) 拍手) の5と、 の2を添えて、 を打つのは、 です。 アミヤ・ アモト アカコワサ - (宇宙の 13にな シナウ

の数は365日に一日を足して「今(マ)」モノ(魔物)が入り込むスキ(隙)

ないます。 ケ(棟上げ) ヒトヨミキ(醸し酒)を供えてサイ を作らなくした数です。また、ユミ・ヤ ムワタ(アミヤシナウ) ハシラ (柱) には、 「マ」モノ ムのタミメ(ムのヲシテの造形) ツチ(木槌)を打って、 (魔物) の最終仕上げ が入り込むスキ(隙)を防ぐ意図があります。それぞれ、 キツヲサネの5を祭ります。 のお祭りで7を祭ります。 ムネ(棟) に組むわけです。 ムネ(棟) (幸い)を祝います。そうして、 (弓矢)を添えて祭ります。 これも とハシラネ(柱)との結合をおこ とハシラネ(柱)を結合させ トシノリタマメのお祭りと、 みなみな、 その時に、 それぞれに、 タクミ (匠

一)の唱える言葉の田子(ノト・祝詞)は、

ぬしはながかれ かみあれは ゑやはよわかれあめつちの ひらくむろやの

回年本六田 爪及小中中中田

分分の表の き中の中今のま

一八の田田田男

この田谷 祝詞) は ムのタミメによって今中や (ムロヤ

るように、と祈ります。 家・建屋)が作られたのでして、 (病気などの災い) (新政庁) このノ の建築中の地面を這って口から炎を吐き出して の少なくなるように、 トも3回唱えてモチ(餅)を投げ散らします。 その精神に、恩恵に感謝をします。 ヌシ (家の主人)は長命を得 つまり、

ことだろうか? オモノヌシの2代目のクシ (もぐら・土竜)を見て、 不満を持ってるのでしょうか? 恐怖を覚えたのでした。 (獣) が居ま ヒコに、 民衆たちは何か良からぬ事の兆候ではあるまい モチ 早速、 ご下問がありました。 炎を噴いているようです。(餅)のウコ(出来そこない ニニキネさんに注進しますと、 このオコ オ

クシヒコは答えます。

得なかったのでした。(理想と現実の相克は、 体化した状態)との合体による生成した生き物です。 ような大昔の所に 供を産ませたのでした。 した。それで、 『オコロ(もぐら)と言う生き物は、ホ の自然神の ハニ(固形化した態) カクツチは、 ŧ 同じように有ったわけです) でも、 タツ(極めて優れたモノ) それが、 の自然神のハニヤス・ヒメに多く タツ(極めて優れたモノ) (火・熱いエネルギ 今現在の事だけでなくて、 ホ (火・ を産もうとしたので 熱いエネルギ には成り か子

の奥深くにゴニョゴニョと居るしかない有様でした。 オコロ こんなチャンスは、 して下さいませんで (もぐら) は、 またとも無い機会です。 どうにも日の目を見れないままでし しょうか?』 このニニキネさま どうか、 ヒト くるの

目のオオモノヌシのクシヒコは解説をしたのでした。 と、言う意味でのオコロ(もぐら・土竜)の出現なので しょう。

解釈を受けて、 ニニキネさんはミコトノリをお発(は)

ました。 ロ 四央(オコロ・もぐら)へのお示しです。

成るに値する誉れを受けるのも順当なことだと言えます 『ナンチあなたには、立派な功績があります。この事からしますと、

たのでした。 がヤマサカミ(トシノリ・ヤマサ)を生んでミカマ そもそも、アメノカミ(カミヨの昔から7代イサナギ・イサナミに至って (竈) を守り、 家を守

あなた方に、兄はイクシマ、 コメ 埋めて柱の礎石の安定をはかりました。 オフカンツミ(モモの実の堅いところ・その働きの実)は、 功績が大きいと讃えられて (魔物) に追われることを防ぐ事が出来ます。 (もぐら・土竜)も家を守ってくれるのですね。頼もしい事です。ここ れるように頼みます。 しが新たに建築する、 弟はタルシマの褒め名を上げまし また、 います。 ミヤの付属施設の4か所も、 こうして、 リのミヤのネ さらに、 これに準じて、 建物を建築しますと、 (礎石) よう。 兄弟のヱとトの ハニの土中に を抱えて守 同じように あなたオ

ヘル、豚/には、コ?- (庭) の4ッつです。

ために、 (9尺)の地中の奥深くに居ると良いですね。 て寝ると良いです。 ・炊事をするところ)を守って下 サ (南) に向 向この

と良いです。 ナツ (夏) ネ(北)に向いてツ(西)に枕を置いて寝ると良いです。 を守って下さい。 3 夕 (3尺)の地下に居る

です。 アキ(秋)には、 キ(東)に向いてサ サド (井戸) (南) 枕に寝ると良いです。 を守って下さい。 7夕の地下に

居ると良い

フユ(冬)には、ニワド ツ(西)に向いてサ 南 (庭) 枕に寝ると良いです。 を守って下さい。 1夕の地下に居ると良い

え名を贈りたいと思います。 り守って下さい。 ハラ(腹)、 トコを敷きてヒトが眠ります。 セ(背)、クビ(首)、アシ とお願い したいとの思いを込めて、 その、 (足) 根本の根っこを心を込め にと従い続くイシスヱ(礎) 「オコロのカミ」 ぞ 摺

も守ってくれるように頼みたい一心からです』この思いは、新造営のニハリのミヤを手始めに、 今後も家々の新築の家屋

ニニキネさんのミコトノリによって、 当事者の 央 (オコロ

べら)も、宮大工も、一般民衆も納得しました。

さて、次は、大きな建築物の事でもあり、

各門には、 門についても体系的な建築を図ろうと言う、 名称を付けるべきだと言うのです。 動議が出て来ました。そして

でいたら、 るような事が、 守ることが出来る事になります。ニニキネさんの新宮殿には、 9門のうちの1門が1 そこで、 年の日数の365日にほぼ該当する事になります。 〇日に準(なぞら)えると、 それぞれ9門を設け 次には良い事が来て、 東西南北を一年に準 悪い事が来て、 つも良い時ば おおよそについて、 〇日づつを守護すれば、 て人々を守る事になりました。 かりとは言えません。良き・悪しき、 9×10×4=360になります。 (なぞ) らえて、 常の成り行きのようです。 成り行きの事々ですね。二二 ほぼ1年の日数の360日を 各方角ごとに9門を備えて それぞれ、 こと)を織り交ぜて、 つくづく、 でも、 0、の交互に来 天地自然の成 良い事があれ 四方の各方角 方角に作る 思い悩ん

サ(南面)のキ(東)からの9門は、

、アカツキのアハ、ニのタカラ

ネ(北面)のツ(西)からの9門は、 ネ(北面)のツ(西)からの9門は、 ネ(北面)のツ(西)からの9門は、 ス、ハナヤカのアハ、ニのミヤト ス、アカルキのアハ、ガにヤメル ら、オホロヨのアハ、ガにヤメル ら、オホロヨのアハ、ガにヤメル タ、ヒカハクのアハ、ガにクルシ ス、ヒオツルのアハ、ガのトカメ ス、ヒオツルのアハ、ガにオトル ス、ヒオツルのアハ、ガにオトル ス、ナヤカエルのアハ、ガにオトル ス、ナレヤウのアハ、ガにアヤフ ス、ナレヤウのアハ、ゴにマスシ ス、ナレヤウのアハ、ゴにマスシ ス、ナレヤウのアハ、ゴにマスシ ス、ナレヤウのアハ、ゴにマスシ ス、ナレヤウのアハ、ゴにモナル

5 6 9 8 7 6 5 4 3 ホシテル ガにナス テ ックラ ア メカの のアア のののアアア ののの のの ガにキュル ニのタカラ ニのタカラ ガにヤ ナカオヒエ 一一の ニのヒカリニのヨロシガにソコネ 二のヨロシ ミタカラ の9門は ミヤト

9、アキラカのアハ、ニのヨロシ7、テリオレのアハ、ニのタラチタのアハ、ポにヤフル

キツヲサネ(東西中央南北) の中央の「☆(ヲ・特殊文字の中点なし

マカミ(古代の天皇陛下)のクニトコタチさんの制定なさったトシノリのタ ム(6)ワタを産み上げます。 ウチ(中央・皇居・家々)を守る意味が強く込められています。 別の言葉に、 ヒヨミカミとも言います。 キツヲサネと、 こころの成り立ちを分析する用語にもあります) ム(6) ワタとも言います。 アミヤシナウです。 井(5)クラとは、 つまり、 初代アマカミのクニトコタチさ キツヲサネを言います。 そして、 **ヰ**(5)クラと、 アメよりクタス 初代ア **#**

ノリ)」を定められたとも表現されています。(ホ 9-48(1725)、ホ 21-7(3994)、 21-29(4082), ///-18(11624)) 21-58(4199) 木 22 - 7(4262)木 22-29(4347) ホ

(暦)の守るべく定めたのでした。

これを「半八田八

守るカミ(繋がり生じる働き)です。 守るカミです。 るカミです。 がコヨミを守るヤマサカミです。 がり生じる働き)を言います。 メの3カミ(繋がり生じる働き) の5カミ ヤマサカミを足して守る事にします。 代アマキミのイサナギ・ ニの自然神のウツロヰ・ (繋がり生じる働き)と、 スヘヤマスミは、 最後のタツタヒメは、 イサナミさんは、 生物全体の豊かさの根底である植物の繁栄を9。ヲヲトシカミは、ソロ(穀物)の豊穣を護 5要素のア を、 シナトへ ヲヲト タツ 合わせて8カミ(繋がり生じる働き) ヤマサカミは、 ナミの台風 シカミ・スヘヤマ イウエオの、 カクツチ・ミツハメ・ 暦を守るヒヨミカミに、 の凄まじさなどからを ウツホ・カセ・ホ・ ヤマサの8カミ(繋 ハニヤス さら

飼うわけです。 リ(鶏)を飼おうとしました。 新宮造営にお この意味は、タミ(一般国民)のカラフシマ 貧困から国民を守る意味です。 ニニキネさんは、 ヤマサカミをここに祭って、 カド に夕力ヤを作って 、(貧しさに枯れ、トリ(鶏)を

るわけではあ ワカクシマドとトヨマドの二人がト (鶏)を飼うことの意味は、 枯らせて枯れる悪い状況をいち早く です。 単なる鶏卵 枯らせて枯れることは、 の収穫を期待す のお世話係に任

たちの驕 てしまいます。 と露見がしにくいモノですが、 問題を言います。 (おご) 悪政が元での りは、 枯らし枯らされの苦しみは、 政治の至らず悪い事 人々の不幸は起きていない 一般民衆に苦しみとなって、 やがては、 朝廷に知れるところとなりま 度合いが深刻に 一般国民を苦 折角の能力が磨り潰さ になって 8 からで

苦しみを覚えるものなのです。 どからを守るカミです。 豊穣を護るカミです。 8カミ(繋がり生じる働き)を言います。 痛みが広く知られる事になります。 の繁栄を守るカミです。 る働き)がコヨミを守るヤマサカミです。 タツタヒメの3カミ(繋がり生じる働き) ハニヤスの5カミ それは、 乱れが生じて来ます。 ヤマサのカミが知る所となるからです。 ハニの自然神のウツロヰ・ (繋がり生じる働き)と、 スヘヤマスミは、 ヤマサのカミ(繋がり生じる働き) 最後のタツタヒメは、 トリの声が乱れて痛めば、 そうしましたら、トリ 生物全体の豊かさの根底である植物 ヲヲトシカミは、 5要素のアイウエオの、 シナトへ・ ヲヲト 合わせて8カミ(繋がり生じ タツナミの台風の凄まじさな ヤマサカミは、 (鶏) カクツチ・ これに通じた人々 の関 が知りますと、 ソロ(穀物)の ミツハ (とき) ウツホ ヤマ スミ・

へは現在で言うと検察官や査察官のような職責です。 する大きな罪であるようだと、 大きさを測って、 人の政治からくる不幸を取り除きます。 朝廷では『フト 罪深く改める悔悟の情のない場合は、 糺 (ただ) マニ』にて詳しく調査をして、 すべき罪状かどうかを把握します ツウチやヨコへを遣わします。 その、 地方執政官の更迭を 人々に降りかかった痛み つぶさに状況を調査 ツウチやヨコ 人々を圧迫

早く察知するトリ(鶏) こう言った役目でニワトリ なのです。 (鶏) を飼うわけです。 民衆のカラガレをい ち

気持ちを受けてれば喜びを感じて、 ス」(集まる・アメからのひかり・ちから、 (砕かれ)てしまいますと、クダカケに鳴くわけです。 「カラフ(枯らすことを、 のまま正直に鳴くのがト ニワトリは朝日など「カ(光り)」を受けて鳴きます。「ツアカ」「エ 乞うのです。 (鶏)は正直なモノです、 それでなのですね、 リも憂いを感じ 言うのではなくて、 振れまわる)」をしてくれます。 自分自身の思いが、 (鶏) なのです。 ます。 素直なモノです。 く鳴きます。 得ず)の故に、 「コカコフ」と、 ちょっと、 そこに付加され それが、 り (鶏) コヌカ 自分に受けた の気持ちを、 レンジする (光り)」を受け (米糠 (鶏) クダクレ が鳴 良い ij

るための灯台がトリヰ(鳥居)なのです。このことは、 (皇子)のオシホミミさんにお教えになったみウタがありました。 なによりも、 (鶏)よりも先に、 カミ(アマテルカミ) 一般民衆の苦しみを知

しらねはカミは

リヰヌそ ホツマをなめて

トリヰなりける

えられています。 60×60=360の1年の日数を表しています。「フトサツキ」は、 もう一本太い材木を渡します。周囲6夕(60キ・60寸)のマルケタです。 〇寸・3夕)の周囲の材木を用います。 (柱)は周り30キ(30寸・3夕)のことで、 トリヰは、 です。 柱の高さも3タケ(3丈)です。 (南)の門に設(もう)けます。 (ヒトの平均身長が8夕) 2本の柱を立てる間隔は3タケ 柱と柱ろ渡すケタ(桁)の上に、 30日のひと月の日数に準 ハシラ(柱)は30キ ハシラ 3 3

建築についての所見の、 って「�(ヤ)」のヲシテの形状にちなんでヤシロが作られてゆきます。 の人々への流布によって、人間らしい生活の樹立が出来たのでした。後になの形状にちなんでのムロヤの建築に始まります。「ム」のヲシテのムロヤ建築 建築の歴史を辿りますと、 オオクンヌシ(クシヒコ)は建築に関して、色々な所見を持っていました。 今々の時代になって、 おおよそは、 さらに立派な建築物のミヤが作られて来ました。 人間らしい生活の樹立が出来たので 初代アマカミのクニトコタチの「ム」のヲシテ 次のようです。

(ハシラ・柱) の木材は上下を逆にするのが良いです。 根っこの方

頭だった方は下にして下さい。 腐りにくくなります。 この故に、

(ム・ネ)を中ま (ヤ・ネ)と言うのです。 上方に雨避けを葺き詰めるの

の「ネ」での根っ子を意味します。

直しをして下さい。上方は材木の根ッ子でしたから、接ぐのには適しません。 ハシラ (柱)に腐食が起きて接いでの修理をする時は、下の方をから接ぎ 材木の梢の方でしたから、 接ぐのに適切な部位 です。

(ムナキ) の場合は、 末の方を接いで直して下さい。

のヲシテの形状から言える事で、「今(ム)」を「の (な・成す)_

ムナキは、 B Ψ ()キ・ から、 ムネの方に手を合わ

躍する部位ですから、 季節になります。 に接ぎを入れて直して下さい。 せたような位置にあります。 にするべきです。 てくる始まりの意味のムツキですから、 修理をする場合には、 (梁) の方からすると、 ネに接ぎ直しをすべきではありません。 リの方はナツ(夏)のウツキ(5月・梅雨) スエ(末)の方に当たります。 それで、 一年の初めのツキ ムネの根っ子の方には接ぎを入れないモノで ムネは根っ子に当たります、フユ(冬) ムナキを接いで直す場合ですが、 ムネが最初の方向である事になりま 月 接ぎ直しは、 が、 (ム)」の生じ の季節に活 スエ (末) 先の方

に差すのが良い ヒサシ(廂)はヒ(日) わけです。 の蔽いです、 兆しに通じますから、 キサ(東南)

シトミの名称の (部) は、 11 われは、 格子に組んだ透け戸です、 「(サト)のヲシア(テ)」の通っているかどうかを 雨戸のように使います。

見るための 中 (ト・戸)」 の意味です。 (どうして? が戸なのか?

田圃に居るシキ(シギ・鴫)が居ますべしの名前が付けられました。 ぐことを考えねばなりません。ト の居場所を確保して、 ネのカモ(鴨) のうなりの音に近い音がします。舟で行くときの音ですね。それで、 付ける事になったのは、この理由からで ルには「カモヰ」の名前です。 上はカモの居場所の「カモ・ヰ」と命名して、「タツタのカミ の水鳥の名称を付けたのでした。下はシキの居場所の「シキ・ (こす)れ動きますと、 火災の予防に心をこめたのです。 ト (戸) **बें** 熱を発します。 の上下のレールには、 を引き動か 下のレールには「シキヰ」と、 しますと、ウシホ このため、発火を防 水鳥の名称を カモフ 上の (潮)

の日の事か?】でしたらば、 日は良くありませんので避けて下さい。 〇ヱ」の日にすると良いでしょう。特に、 カツヤマイリ(樹を切るための山入り) 凡そすべて建築に良い日と言えます。 「アメアカルヒ」【詳細は未詳・「二」 「キ〇〇」と「ヲ〇〇」のふたつの には、 キアヱ暦の「ツ〇ヱ」と「サ

オオクンヌシ (クシヒコ・ヲコヌシカミ) の建築に関 しての所見は右の通

考になる所見であるとなさいました。 これを受けて、 ヲコヌシカミの褒め名を下賜する事にしました。 ニハリのミヤを建築を目指すニニキネさん そして、 オオクンヌシ(クシヒコ)に 家の中央の柱をヲコヌ は、 とても、

シラ(大黒柱)と名付けたのも、 この時のこと

ギの3子、 騎乗して守り行くことを表明します。また、 でもすべてが整いました。 (アスカのミヤ) (拍手)をして祝賀を 長男はヨロマロ、 新築なったニハ ヲコヌシ リのミヤの建築は、 からも、 (クシヒコ) 第一の重臣のフトタマ(7代タカミムスヒのタカ します。 ツク リのミヤへと遷(うつ) タクハタチチヒメも同じ育ちです) ハのミヤ ヲコヌシの知恵も役立って また、 の率いる25人のモ (茨城県筑波 アマノコヤネ(カスガ)も、 ニニキネの兄のホノアカリさん ります。 Ш 山麓 の 日 が祝賀に 共に

ヲコヌシ(2代目オオモノヌシ、 シヒコ)と、 と出発します。 しましたら、先ほどの雷によって垣根が壊されてしまってい 十里の地名が現在も残っています。 さて、 ニハリの方角に雲が立ち込めて雷が落ちました。 夜から実際の遷御の移動が始まります。アマノコヤネやヲコヌシ 25人のモノ ところが、 約半分の10サト ノへ達が守って、ニニキネさんはニハリのミヤへ クシヒコン 筑波小学校から約12km) 程来たとこ は言いました。 7 (三里) 茨城県筑西市桑山に ニハリのミヤに到着 ました。そこで、

垣根を壊すとは情けなき事だ』 『二二キネさまのお遷りを、 タミ(民衆) たちも祝ってくれているの

魔除けをしようと、 ハハヤの Φ 4 B (カブラ矢・鏑矢) を放ち射 61 出

賀のミアエ 迎える事 破損箇所の修理も済ませました。 したが、 が出来まして、 します。 鏑矢はグォーっと音を放って飛びまして、カセ(風)のシナトの (食事) も無事に済みまして、 ニニキネさんは、 それで、 雲を吹き払う事が出来ました。ここに、 おっしゃいますのでした。 新宮のニハリのミヤに入って行きました。 一応は、 ミヤ遷りの行事も済んだことに ヲコヌシ (クシヒコ) 「チ」 垣根 を なの祝

て見ておいた方がよさそうです』 後々に起きて来るかも知れない、 シによってのユミ(弓)の魔除けで、 『雷による垣根の破損は良くない事が起きる兆候かも知れません。 良からぬことについて、 一応の防ぎは出来てはいます。 もう一度よく考え しかし ヲコヌ

ニニキネさんのお考えの下(もと)に、「フトマニ」を見る事にします。 コヤネ(カスガ)が「うらない」をしますと、 コヤネはじっくりと考えて解説をしました。 アア コケ」の項目に至りま

アコケの項目が現れたのから判断しますと、 ウツヲのカミの仕業であろ

ヲコヌシの継子(つぎこ)のミコモリ (こもり) は、 ウツヲカミを

アマテルカミはミコト ij しておっ いますの カミに事の次第を報 でした。

て来て た事は事実ではあるのですが、 によって言上しました。 カミの祭祀の復活を願っ 自然の猛威から って防ぐか? たカミです。 しまいます。 カミのご意向を受けた、 これの、 人々を守る防御に歯抜けのような欠落が生じる恐れが出 祭祀そのものからの否定廃絶のご沙汰でした。 ツヲのカミは、 なき程につまらない い問題になって 祖父にあたるアマテルカミにフミ(文書・手紙 祭祀を 今後、 ニニキネは考えました。 ウツホ な て取り壊して 切、 まいます。ニニキネは、 ウツヲの (気体) ウツヲのカミを祭らないとする ヤシロは、 雷から受ける災害をど の形・働きにおける擬 確かに、 祭るに値 問題のあ ウツヲ この、 しま

『ウツヲのカミの、 ご猶予し で下 後(のち)の更生を待ってこの度の不祥事に対する咎 さっては如何なも のでありまし ようか?』

ヲのカミを許すお気持ちにはなられ この、 シロ フミ(文書・手紙)を受け 閉ざせ」と、 おっ しゃ いますばかりでした。 ませんでした。 取ったアマテルカミは、 やはり、 まだまだ、 「(ウツロ ウ U in

とたび) 祥事はどうぞ、 も後々にはきっと功績を立て 子のような大勲臣には似得るべきではない を果たして勲功を積んでくれ オオモノヌシの2代目とし 司に相当) かと思われます。 (忠節) とした指導をして行きま そこで、二二キネは再び詳し 『ウツヲのカミはこの度は、 は、 を尽くして為し、 になり得たので 大きな罪に陥って お許しになられて それは、ヲコヌシ(クシヒコ)の親のオオナムチが一度(ひ した。 て功績を上げて、 したならば、 てくれる事で 7 後にはヒスミキミ(ツガルキミ・津軽地方の 失敗をし く願い います。 しまったのでしたが、 また、 さいませんで そのオオナムチの子の フミをしたためた 再び間違いは起こさないのではな てしまったようでした。 かも知れませんが、 よう。 今、ヲコヌシとして立派に職責 オオナムチ、 ようか?』 このゆえに、 ツミ(罪)を糺 のでした。 ウツヲのカミ クシヒコは、 この度 でも、 ヲコヌシ親 してマ ちゃ

これを見たアマテルカミは、 ニニキネは、 祖父に当たるア しになったので さすがに、 がに、ウツヲのカミを許す事になさいマテルカミにフミで申し上げました。

力を込め て守るようにし さい 薄い5日に う いて、 ウツヲのカミが特

暗日)の5日はヱトからは守られてはいません。 ×6=360日はヱトの守りのうちにあります。

いて下さい』 5日をウツヲのカミが守って下さい。 6月みそか) そして、 キネ (節分前日、 (東北) の一本の樹を居場所とし 大みそか、 -月6日、

げます アマテルカミのお言葉を聞いて、 ミマコ(アマテルカミのお孫さん) ヲコヌシ (クシヒコ) のニニキネさんに申 は感激を

さらに喜ぶことで御座います。 は立派になった、 て下さいましたらば、 しい事の限りであろうかと存じます』 『そのように、 よく無い事は反面の材料にと役立てれば、 我が親の間違い ってもない ヒスミのキミ また、ウツホのウツヲのカミも、 を失敗の見本が、 11 (オオナムチ・ 事で御座い 何よりも有効です。 反面教師 ます。 ツカル 良 の題材にお役立 Ū \mathcal{O} きっと、 3+11) 事はマネて 今で

ニキネも、 、道筋をお示しになられたのでした。 そうして、 ここに応じ 更なるニニキネさんのお言葉を求めるコモリでした。そこで、 てウツヲのカミが、 この後の仕事や功績を立てて行

ラマサキミ (諸源の中 ものであります。 のカミのヤシロ(神社)の筆頭の位置を称(たた)えるものでもあります』 『ナルカミ(雷)のヌシ(主)であるウツロヰ(ウツヲのカミ) 再びヤシロ ウツロヰは、 (かみやしろ・ 心のキミ) キネ(東北)に居まして守ります。 としての称号を与えます。 神社)に祭る事になりました。 これは、 は、 そこで、

出来ま カリウツシ(仮り遷 にある一本 しても接触 さて、 の修理が出来ませんでした。 ミツカキ のヤシロキ(依りシロの樹)があって、 て、工事の終わった後に、また、 しまいます。 (瑞垣)の修理をしていますと、 ミツカキ の方法です。 宮大工たちは、 (瑞垣) ヲコヌシ これで、 を修理するにはウツロヰの樹にもどう (クシヒコ) ウツロヰを恐れてミツカキ 元の樹に戻すことにします。 宮大工たちも安心 修理するミツカキ(瑞垣) ウツロヰのヤシロの北 他の樹にウツロ して作業が

र्वं トのミコト)が守り、 にウツヲが強く守る事になりま ウツロヰは、 年毎にア・ (節分前日、 が交互に守りウツロヰも守ります。日ごとにもヱト トシノリのカミの筆頭として、ヤマサの8カミ全体を守りま (2代目クニサッチのアのミコト・ 大みそか、 ツキ(月)をヱトが守ります。 1月6日、 1月1 4 旦 そし 1 6月みそか) のミコト ζ クロヒ(暗日) (ヱのミコト・ の由来に基

ウツロヰが強く咎める行為をしました。 ある時の事でした。 タミ(民衆) の新築のヤ作り ウツロヰの考えはどういうところに (住居の新築) の時に、

『なんち (汝じ) ウツロヰよ、 咎めをするのか?』 タミが建てるアラヤ (新築家屋) の工事で

ウツロヰは答えます。

『ヲタフ(中心を)に改めな 清めない。 ホ28 -78「ヨロのヲタウ

出さ無くてはなりません。 の類例あり)をしないで、ニワ れは、 状態にと守るのが私の仕事です。それを、 私が守っている事に対しての悪さと考えられます。 これは、 (庭)にヤのケガレ 私の責務なのです』 台無しにする行為には、 (穢れ) 清められて美し を出すのです。 咎めを

ヲコヌシが、 ウツヲノカミの答えを代弁して、 ニニキネさんに報告申

三三字さんは、ウツヲのカミにおっしゃいます。

むるようなことをするのはいけません。 とか再任・再興させたのです。 したことで、 (汝じ)、 あなたは、 ウツヲ (ウツロヰ) 祭祀のカミから外されてしまいました。 今また、 我がタミ(国民)を故無く咎(とが) よ。よく考えて見なさい。 それを、 垣根を壊 何

間違いです。何故ならば、 決して汚いものではありません。汚いものと思うのは、 美しくないと思っているモノは、 豊かな作物が出来る土壌こそが、良いツチです。 実は肥料であるのです。 あなたの、 です

良い土壌こそが、 良いニワ(何かをプラスする「♠(二)」の精神の「�(ワ)」

さい。 間のあいだに、 固める結果) て泥や埃りの散らかることに対しての嫌悪感があるのは否めないことで とはいっても、 あなたが、 そこで、 「〇アヱ」 話を聞 なのです。 360 日の守りの日々のうちに、 守りの仕事に熱心なことを誉める意味もあります。 いた一般の国民たちも納得し安心しました。 から「〇ヤヱ」にかけての5 人々がヤ あなたには、 ヤ (家屋) (家屋) 肥料豊かな土地に対する嫌悪感、 作りをする事に 作りの汚れも、 日間は遊びに行く日と 幾日かは遊び行くことに しましょう』 これに準じて います。 土地が掘ら しょ しな

う言葉があるように、 こうして、ニニキネさんは、60000年の間ニハリのミヤ(茨城県筑西市 また 60000 年間の政り事にあたられます。 ツクハのミヤ まつり事(政治)をお執(と)りになりました。(「ヨロキミ」と言 (筑波山神社のあたりか? 1年を10000年に当てての表現の可能性があります) つぎには、 諸説多くあり) フタア に戻りまし

カミと呼ばれるようになりました。ヤに戻られました。いつともなしに、ニニキネさんを賞賛して、ヰツ・ヲヲここにも、60000 年間おいでになられます。その後には、元の、ニハリのミ神社、栃木県日光市山内)の馬術のヲハシリにゆかりの土地に行かれます。

14 / 77 ページ 11/2016 (C) 池田 満

ホ 2 2 オキツヒコ ヒ ミツ 0)

ろうとするのか ミカ (竈、 (カミ、 現代 的 繋が に はキッ り茫洋と チン) 生じる、 をより良 働き) く保つため には、 歴

史的に長い変遷がありました。

この時は、 時代は、 1 代アマ カミの頃の事でした

る、 を、 祭祀するにあたっ て、 1 0 代ア マ カミの弟

ミカマトをより良く保つカミの☆

(カミ、

繋が

り茫洋と・生じ

ニニキネさんが任命なさったのが、 オキッヒコでした。

0の褒め名の オキツヒコ たので、 た。 すから、 ニニキネさん 「ミカマ 夫婦円満の教えを全国を回って人々に伝え トのカミ」 オキツヒコは、 0) お眼鏡に適っ は、 アマテルカミから とっても偉い たのでした。 人であ 0 頂きも ったと

言えます。

あ する寸前にまで至っ る事ですが、 オキツヒコ それは、 からでした。 実は、 が、 『ホ どうして? オキ た経緯があっ オキツヒコは、 マツタエ』 ツ Ĺ コは 偉 13アヤをよく読んでもらうと解 た 思 V 0) 大いなる大失敗をしたことが V 0) です。 間 か。 違 その偉さの生じ U 人間、 0) 失敗によって自殺 失敗してみて た理由

呼ばれます。

ます。 初 め 悲 解る真実も多い事です。 V 思いをしてこそ、 痛 はかなさも、 V 思 V をしてこそ、 楽しさも思うんです 辛さが解り

ね。

ミ (司) ことがあって、それで、ミカマトの それで、 また、ヒ として、 働き) オキツヒコは、 火 は、 とミツ アマテルカミから「ヲシテ」を戴い 分谷 沙 ミッ 金の金 の清らかさを守る 秀でたこと) Φ (ミカマト) \Re (カミ、 の讃え名を付けて を祭り教えるカ 繋がり茫洋と・ ノトを奏上する たの でした。

ウ をするカマト V ました。 さらに、 工 働き)として、 のキアエから始まる60 昔に遡って言いますと、 (竈) を守る守りの キツヲサネ 0 のそれぞれが充 ミカマ (東西中央南北)・アミヤ M (カミ、 1 0) カミとは、 繋がり茫洋と (あ) てられ 煮炊き

依 せ 時 りまして、 かったのでした。 に、 0 祝詞) 代アマキミの弟の方のニニキネさんのミコト ヒ 火 を記して奏上するのでした ここに、 と、 ミツ ミカマ 沙 についての守りの 0) カミのオキッヒコは 任務を仰 リに

それは、 昔にアマテルカミが田子 祝詞) を、 おん親(み

ずか) ら唱えておっ しゃっておいででした文章からの説き起こし

に始まります。

オキツヒコは伝統に基づいて、 カシキ 赤• **İ** 黒 のユフ

維をヒラヒラさせた幣) を、 A 本 本 本 本 (ミテクラ 祭り の中心)

しました。 そして、 ヤモヨロカミ (沢山の諸臣) を招き集め

(祝詞)奏上の準備をします。 それは、 オキツヒコを、

0) ハラの カン ツカサ (祭り主) ての、 お祭りです。 タカマ

 \mathcal{O} 朝廷の事も指します また、 大宇宙の事そのもの

を意味する言葉でもあります。

さて、 昔にアマテルカミのおん親 (みずか) 5 0)

次のようでした。

『ミカマ(カマ 竈 のホギ (褒め称えて守ることを依頼す

3 に預かるΦ A (カミ、 繋がり茫洋と・ 生じる、 働き) は、 古

マカミの クニト コ ロタチさま の成り 出でになられて り

ら後の 7代までのアマカミたちの時代に、 準 (なぞら) えられて

もいます。

先ず始めの守りは、 ホ カミヱヒタメです。 八方の 方角の 守り

0

M

(カミ、

繋がり茫洋と・

生じる、

働き)

のヲシテ文字に表れ

棒 温かさの4本の 冷たさの 4本の Φ M Ø A (カミ、 (カミ、 繋が 繋がり茫洋と り茫洋と・生じる、

棒 によ って編まれ たトホカミエヒタメですから、 季節

りでもあります。 地球上の地面に近いところの守りは、 キッ ラ サ

ネ (東西中 央南北) の方角と中央、 そしてアミヤ シナウ の食べ

(生命) を守るカミ (繋がり茫洋と・ 生じる、 働き)

合わせて1 Φ M (カミ、 繋がり茫洋と・生じる、 働き) に

て守らせるようになっ 7 います。 この故に、 日々、 毎日毎日

シカマト 0) 工 トで の代わる代わるに守るカミとして讃えますので

あります。

さんが、 に対して、 れて祭られるので また、 命名なさっ 8代アマカミのアマテルカミのミヨ ヤ ヒカミ マサのカミと、 たのでし $\widehat{1}$ アマテルカミが祭祀を始められた自然神 1神 た。 7代アマキミの に、 「ヤマサのカミ」の さらにヤ イサナギ マサ (御代) ノカミが追加さ 「カミ」とは 0) 時 代にな

ホ ミツ ハニの5要素についての擬 人化の Φ M

る概念で、ヲシテ時代中期での働きを意味する言葉です。

ウツ

繋が り茫洋と・生じる、 働き) の5カミと、 穀物豊穣のカミのヲ

治水のスヘヤマスミ・鎮火防火の タツタヒメの3カ

ミを、 合わせてヤマサのカミの8 0 M (カミ、 繋がり茫洋と

じる、働き)と言います。

この、 マサのカミを讃えるノ トは、 次 のようです。

ヒサカタのアマテルカミのご治世の初め の時 の事でした。

ヒヨミのトリのカ、 つまり、 アマテルカミの初の マツリコト (政

治 の執 り始めの暦を告げる際において、 伝統的な ジコヨミ

の守りの、 キツヲサネとアミヤシナウのソヒカミ $\widehat{1}$ Φ M

そしてヱ トの守り のため祭祀をなさいます。 さらに、 ヤ

Φ M (カミ、 繋がり茫洋と・ 生じる、働き) が追加される事

になりました。

7代アマキミの イサナギ、 イサナミさん のミコト リに

拠りまして ヤ マサの80分 (カミ) と命名されました。

5要素のことから生じたカミ、 5 **⊕** (繋がり茫洋と・生じる、

働き)。

1、ウツホ、ウツロヰのカミ

2、カセ、 シナトへのカ

8

火災の災いから人々を守る

カクツチのカミ

ミツ ミツハメのカミ

5 ハニ、 ハニヤスのカミ

八間界に有用な働きのカミ、 3カミ。

6

食糧生産の豊穣、

П

・ヲヲト

のチカラを守るカミ

ヲヲトシカミ

水の貯留に有効な森林を守る

スへ ツミ

タツタヒメ

この、 8 **D** (カミ、 繋がり茫洋と・ 生じる、 働き) をヤマサ

のカミと、 7代アマキミのイサナギ・ イサナミさんは命名して、

祭祀する事になさいましたのでした。

この、 マサのカミの80余 (カミ、 繋がり茫洋と・ 生じる、

働き) が、 常に天地の間を巡って守ってくれているので、

0 ヒ 火 やミツ 水 の障害も防御出来ます』

7代アマキミのイサナギ、 イサナミさんはおっしゃいます

さてそうしまして、 世の 中も平穏になり来たりました。すると、

カク ツチのカミと、 ハニヤスヒメとが結ばれて沢 Ш のオコ (E

· 土竜) が産まれました。 オコロ は、 目が見えているのかど

うだか、 モグモグやってばかりで、 とてもタッ (竜) のようなシ

ープさがありません。 人々の役に立つかどうか? もう少しで、

捨て去られてしまうところでした。 ヲヲクヌカミ (クシヒコ)

の浄化守護に役立つから、 と、 助言したことから守り主の地

は、 位が与えられたの ミコト リをしてオコ でし た。 口 0代目アマキミの弟の の守りを位置付けました。 方のニニキネ そして、

おっしゃいます。

『オコロ のカミ 司 よ。 あなたは、 次の ように 地面を

清く守って下さい。

7 \ 春 には、 カマ (竃) の地下 に居なさい。 9タ 9尺

深さの地中が良いです。

夏 には、 カ ト 門 の地下 に居なさい。 3タ (3尺) 0)

深さの地中が良いです。

アキ 秋 ヰト (井戸 の地下に居なさい。 7タ 7尺

の深さの地中が良いです。

ユ には、 ニワ (庭) の地中 に居なさい。 0)

深さの地中が良いです。

ニイミヤの、 新築のニハ IJ のミヤを建築した地面を、

こころをこめて清らかに守って下さい。

また、 スミヨロシ (カナサキ 住吉 が定めた ノリがあ りま

た。 オコロよ、 人々に高らかに宣言をするような舞台である、 Ξ

(展望するようなテラス) 0 その、 根底の ク 口 トコ

口 のナカツ 11 シラ (中心の柱) のネ (根本の場所) に住んで、

ヤマサ 0) Φ M (カミ、 繋がり茫洋と・ 生じる、 働き)

に、世々長くカマト(竈)を守って下さい』

これが、 アマテルカミの時代の (祝詞)

そして、 『チカヒには ミハシラ立てよ』、 と、 ニニキネさんは

おっしゃるのでした。

そこで、 オキッヒコはカシキ (赤 白 思 のユフを分れる

(ミ・テ・クラ)に立てました。

ここに、 オキツヒコがまた、 付け加えるべき「 ヒ 火

水)」のノト(祝詞)の文章を綴ります。

ロみか (カシキ) のユフの 分半人 B (ミテクラ) を立てま ウ

ツ

口

中の

カミを招くため、

キネ

(東北)

0)

ヒトキ

樹

たので、 此処も罗の中 (タカマ) O0 ぬ (ハラ) と同

タカマのハラは、 宮中 のことでもあり、 大

宇宙 の事をも指し示して います。 この、 清らかな祭り の場所

にさし障 り無き事を実現 してくれることでしょう。

ての

祈

りは、

万物の端々にまでも届いて、

わたく

したちの生活

万が一にも、クニユリ(地震)が起きた時も、

ナルカミ 雷 が鳴り 出し て災害に見舞われそうにな

った時にも、

ウツヲヰのカミを招けば、鎮めてくれます。

イヤシロ (カミを招く寄りシロ) にして祭って下さい。 日々を守

るヱ 0 カミ 0) 3 6 日から守りの外れた、 5 日。 この

日とも言い まして、 これを守るのがウツ 口

繋が り茫洋と . 生じる、 働き) です。 ゥ ツ ロヰのカミが現れ

ナ ハカミ (雷) が 鳴 り 轟 V てい ても鎮めて 、れます。

クニユリ (地震) が鳴動して いても鎮めてくれます。

カミは、 ヰッの ワサ (極めて優れた働き) を発揮してくれる 0 M

繋がり茫洋と 働き) だからです。

11/2016 23 / 77 ページ (C) 池田 満

もしも、 ムラクモ (暗雲) が天地を覆ってしま

光の掻き消される障害が起こった場合には、 シナト 0 M **(**力

繋がり茫洋と ・生じる、 働き)を招来して下さい。 ナト

≥ (カセ・繋がり茫洋として為さしめる、 とろカス

ふやカスなど、 変化を為さしめる働き。 単純に 風 に当てる

は、 っと意味が狭ま過ぎのようです) 0) 自然神ですから、 分

厚く立ちこめる雲を吹き払う事が出来ます。 光りを 遮まざれぎ ってミチ

(成り行く の障害を起こして いるヤエクモ (何重にも重なっ

た厚い雲) ŧ シナトのカセに拠っ て払い去ってくれます。 すべ

て見渡す限り の曇りを去らせて、 明け方を知らしめてくれます。

もしも、 オタキノカク (種火にも使う炎が消えてし

まう)ような不詳の事態が起きても、 カクツ チのカミを招けばよ

新しく、 由 (来たり しも良い 清く ホ

をヒウチ (火打ち) 起こして改めてカクツチのカミを招きます。

ましたら、 「きよきアタコと シキミ」 【詳細は未詳】

りましてミカマ (竃) **₹** 中 (来たりしも良い、 清く)

てくれます。

万 一にも、 もしも、 ホ (火災) の災 1 0) ある時 に は、 タメ

ミの

カミは、

たとえ、

に

カミを招いて下さい。 タツタメのカミは、 火災に苛まれる建築

物にタツ の働きで水を吐き掛けて鎮火をしてくれます。

にも、 丰 (井戸) の水を汲み上げて空っぽ に

てしまったり、 濁 りが出て来てしまっ たり飲食にさし障 り が起き

た時は、

ミツ

メ

 \hat{O}

カミを招い

て下さい

ミツ

ハメ

(ミッ

中 (井戸 の水を新たに入れ替えてくれて、 ミカメ

も清く保ってくれます。

にも、 も 大水 (水害) が 出て困 つ た時は、 ス

スミのカミを招いて下さい。 長雨 よる洪水が起きようとしても、 山 0) 山林の豊かさを守るスヘヤマス

Ш 林 の豊かさで洪水の発生を防御 してくれます。 それでさら

に、 による保水量を深く大きくして、 イセキ (井堰) から齎

される農業用 水 の豊かさを確保してくれます。

Oヤ サ 0) カミの守りによっ て、 わたくしたちの 生活 0)

問題点も つ か り と解決 7 れま す。 みなみな、 IJ

ミと、 ヤ ゖ 0) カミとのチカヒ (誓い) こそ著しくも明らかなも

のであります

オキッヒ コが (祝詞) を奏上しまし そうし

ず

むるチカヒ

(誓い

を成し遂げた事の功績を、

ユキスキ

11

单八田 トシ ノリ、 キツヲサネ・ アミヤシナウ) のカ

池田満

ミの マテ (左右 ・両手) に位置する、 オオトシカミ (ヲヲ

と、 ハニヤスメも、 また、 オコロも共にチカヒ 誓 を

との誓いです。 イサキヨカレ そして、 (とても清ら カナキユヒ かに美し 【詳細は未詳】をして、 くある) を願 1 実現 ホギ

讃える事) (焚き火) 0) (奏上) も 中(来たりしも良い、 を為しましたのでした。 清く

Ψ

ノリ

水 清く、 ミカマト (電 清く、 すべてが小中 (来たり

清く)

あれば、 ヒ・ミツ (タカラ) 食物の調理におい 火 のことが、 水 のミツ ての出来上がりもとても \triangle 0 € (瑞 際立 荒、 って すさみ) の素晴らしさ) も無くいさ清く 0) Ø

しも良い、 清く) らかになります。 これを、 常に実現する誓い

 Ψ

中

す。 ノリ、 ヤ マサ、 0) カミに合わせて、 才 コ 口までも誓

しまして、 これが 「ヒ・ミツのハラヒ」 のキヨハラヒです。

ツキタカラ【詳細は未詳】とスサマシク【詳細は未詳】、 鎮

11/2016 26 / 77 ページ (C)

0 か、 Ø **☆** ホ 4-39(599) ホ 13-54(2330) ホ

30-26(7896)) の、大宇宙の源にも天地のすべてにも行き渡らせよ

ヲヲンカミ(アマテルカミ)もおん親 (みずか)ら聞こし

召されて奏上なさいますノト(祝詞) のキヨハラヒになりました。

生じる、 この、「ヒ・ミツのハラヒ」を諸々の●★ 働き) にも、 Φ Ω (カミ、 司 にも、慎みて、 (カミ、繋がり茫洋と・ **九 由** (来

たりしも良い、清く)め給えとまうしてもふす。

『ホツマツタヱ』

木23 ミハさため ツ ナ

天下が安定に平和の訪れた頃のことでした。

ハタレの騒乱が収まり、 以前にも増しての安定と平和が訪

のでした。

シのニワ(庭)に、 集まって居並んでいました。 した。アマテルカミのご隠居のミヤのイセのニワ(庭、 そこで、 ある日、アマテルカミの許にミチを聞こうと人々が集まって来ていま オオモノヌシのクシヒコは、 (白石) が敷き詰められて 多くの人が、 3000人近くのモノ 有り難さに思わず拝み入るのでした。 かね ツルギを、見せてもらって ノへ(警察・軍人)の いました。この日は、 てからの疑問について、 イサワ? ウチ? シラヰ ってい ア

テルカミから教わりたいと願うのでした。 『昔から、 疑問に思っていましたことでしたが、どうして、 ヒト(人)

を傷付けるツルギが、 アマテルカミは、 タカラモノに数え入れられているのでし 解説をお述べになられました。 ようか?

ツルギがどうしてタカラであり得るのか? この意味合いの事です

これを説明するには、ツルギの出来て来た歴史から見てみる事にしま

に初めて創られたものです。 した。 に初めて創られたものです。さて、それ以前には、ホコも無かったのでした。アメノホコは、6代アマカミのオモタルさんカシコネさんの時代 ツルギと言うのは、元々はアメノホコから発展して出来て来たもので さて、 それ以前には、 ホコも無かったの

た。それで、こころも透き通るように清らかでマスヨロトシ(10万×を人々はちゃんと守ったから、ホコもツルギも必要とされない時代でし ギも不要であったのは、 初代アマカミのクニトコタチさんの時代には、そもそも、 〇〇〇万年) の寿命が全(まっと)うできたのでした。 人々が素直であったからでした。 ホコもツル (法律)

の雰囲気に荘厳さが求められました。飾るこころと言えましょうか、 って来ま が寿命を縮めるのか、モモヨロトシ(100万年)の寿命に マキミのウヒチニさんスヒチニさんの頃になりますと、治世

農業生産の不振が起きます。 業生産の不振が起きます。それで、他人の物を奪うような事マカミのオモタル・カシコネさんの時代も終わりの頃になり

つ て処罰するようになったのでした。 中を保つことが出来なくなりました。 頻発するようになります。諭 (さと) 和(や ノを用いて罪人をしの導き方では、

寿命の変化も、不安な事ですが、ツミの天地万物を映すカガミでもあるようです。 樹の 速 ますと、 の利得に敏と 0000年から1 変化には大きな幅がありました。 自然木による計測ですから、 て来ま なかったの それは、 般民衆のおおよそはヤ マカミのオモタル・カシコネさんには、)過ぎて罪を犯すモノを、 新たにホコを製作させた 0000年【詳細は未詳】。 また、 食べ 樹を切る道具ですから作 物の変化にも原因するものですが、 実年とはズレが生じます。 人々の寿命にも、 0000ススから1 ヨロ(8000年)程にも低 斬り収めたので ススは、 り改めを 短命へ 世継ぎ子が得 〇〇年まで、 マサカキは た。そう が加加

ぎこ) 代目ア るわけにはまい なりません さんは、北陸地方の出身です。 お の出来ない つ イサナミの二人に譲位をし が得られませんで マカミのオモタルさんは、 や 事に 6代目ア りません。 なってしまいます。 ablaキミのオモタル・カシコネさんには アマキミ(古代の天皇陛下) 、次代を担うイサナギさんイサナミさイサナミさんは東北地方の出身です。 ツミ(罪)無き人を誤って なめ でもらう事になります のて代アマキミには、 間違うことを避け イサナミさ の位を空け 斬ると子 なくては 1 サナギ ギ う

あげて安定した政治を実現 納付のあるクニです。あなたたちは、 けます しはら(琵琶湖の湖岸地方) の2種のカンタカラ には豊かに実り、 した。 て下さい (2種の神器) ここを根拠に 」そうして、 ミツホ \mathcal{O} 1500 (税収) トのヲシテと、 の村のクニを譲 イサナギさ が沢 全国をまと 山の量で 8 00

日本全国に再び国家建国の理念とし 新宮のヤヒロ(8尋・8間) イサナミのフタカミは、 (自ずからに定まり処)を得てのアマキミと 日本全国の中心としました。 新宮のヤヒロのトノ このミハシラを巡って、 とよあしはらの150 のオオトノ(大殿)を建 実際に全国各地に教導 (宮殿) てよみがえるの て代目ア O マ で でます。 てのご 村から のヲ *\[\]*\ シハ

味で新たな国号に「ヒノモト」が称(とな)えられることになりま いうものは、日の出のように昇って出づる根本のモノですから、この意 済社会が再び直り治まったと言う事になります。「ヰヤマ わいが戻って来ました。これは、「トのヲシテ」によっ になります。 しかしながら、 新田にと作 の意味におい 新たに1500の村落を作ります。 さらに、 とは、とよあ-り変えてゆきます。タミ(国民)も豊かに 旧国号の「ヤマト」の名称も同時並行して使用すること マト ての国号として「ヤマト」の名称が名付けられ (マコトであって生じてくるトのヲシテ)の教えと しはら(琵琶湖の湖岸地方)にて新田開発を 広く国民民衆を指導なさい 湖水の水辺の芦 なり賑(にぎ) フ

ります。 臣下 に依 このように、ア代アマキミのイサナギ・イサナミさんは「トのヲシテ」 の臣を「オミ」と呼んでいましたのも、「トミ」と称するようにな 拠し直すことがとても篤(あつ)かったのでした。そこで、さらに、

は、 すカミのうちの南 ト」のことがあります。 「ト」の重要視には、 2代目アマカミのクニサッチのトのミコトを指して意味 の守護の さらに、 また、 深い歴史的な側面もありまし 四方八方の方角に守りを齎 います。 (もたら) している

世界の端緒が開かれました。 られますが、36番目に出現したトのカミ(ミコト) 方向に位置を辿ることが出来ます。 います。 大宇宙の大初の始まりの際に、 てのことに、 コタチが現れます。 の後 ひとつの理想が見出されます。 の 代々のアマカミもキタノホシ(北極星) また、 キタノホシ それは、 創造祖のア その後の事に、 今では、 (北極星)に準(なぞ)らえら メミヲヤのウイをもって、 キタノホシ(北極星)の 初代アマカミのクニ の秀でた治世に の方向に祭 5

った つまり、 のヲシテ ヲシテ トのヲシエ)」の豊かな実現でした。治世の永遠の原理が のミコトの治世とは、 のヲシエ)」であることを証明したのでした。 人々国民の本心から支持された治世です。それが、 国民を豊かに恵みやわする理想の姿だ

(古代の天皇陛下)のクライ(位)というのは、 エ)」に依拠して初めて高貴さが発光されます。尊さとは、 れを以って「ヒツギ(日継)」とも言うようになり (3種の神器) のそもそもの実体は、実のところは、 (文字・理念) ひとつに数えられて であったのでした。

りも、大切なのは、「ト」の理念なのです。

ミクサタカラ(3種の神器) (なにゆ) えにタカラ ま (宝物) のツルギ に数えられ (ホコ) が

は崩壊 カホコ て逆捩 ます。「サカホコ(初めのツルギ)」は、クニを安寧に保つ役割ます。「サカホコ(初めのツルギ)」は、クニを安寧に保つ役割する意味合いは、ヲシテ文字形の吟味をして貰うとなお解り良 経済が主体の時、 せと迫ります。 ますから社会も安定が保てて、 可能になります。 も出来なく は死刑に処すことも必要になります。アメ ことが必要です。 まいます。 集まって、 \mathcal{O} の政治をし どうにも、 罪状を明らかに 国民に害を及ぼして行きます。犯罪にまでエスカレ します。 、最初 「タカラ」と言うわけです。 それらの人達は類が友を呼び、 恵みに逆捩じを食らわせての言いたい なります。 であり得ます 社会の平和を取り戻すためには、 クニ (社会) て行きますと、 そうなれば、ますます一般 自立自助の努力もしないで、甘えばかりを言い張ります 処罰せねばなり行きません。 ツルギ)」と命名されました。 タ(田圃) 罪人たちを処罰し滅ぼして、 一般国民が豊かになって、 ミツホ 逆らうモノをほころばす を乱してしまうので、ミツホ(税金) 断罪をおこないます。 から経済の根底を創る財力・財宝が出 甘えの人などは、 「ト」のヲシテの精神で恵み柔(や (税金)の収入が途絶えれば、 障害を起こ 人々はさらに豊かに 「タカラ」のヲシテの文字形 クニを安寧に保つ役割をする の国民は貧 群れ集まって、 します。 (朝廷) からの教えに逆らっ そこで、 ミツホ 甘えたの垂れ もっともっと恵みを寄こ 元凶 はじめて、 (滅ぼす)意味 放題にまで 時には、 の罪人たちを滅ぼす なり行きます。 く苦しくな 田圃の耕作 一般の真面目 社会の安寧 の人達が群 させた人 て捕縛 での の徴収 入され 5 が Ħ 達

さて、経済が豊かになって賑わいが出て来ますと、これに伴って諸問 の発生も起きて来ます

てミチ(守るべきル 代目アマキミのイサナギ・ 八口密度の集積が起きたのでした。 新田開発されて新たに15 しますのは必然的な帰趨です の不徹底の問題が起きまイサナミさんの時には、 細かな不理解 人口増加に た。 それ 村落が出 こまでの や行 き来

て来るほどにも複雑な諸問題に対する悩みが蓄積され こ対する悩みが蓄積されていたことがカミは、夢の中にも対立関係の思いが

お亡くなりになられてからの、 夢の中にも出

ますよ。 詮は金取り目的の誑(たぶら) 徐々に安寧さを取り戻して来ていました。イサナミさん る信念であったのでした。 売り言葉に買い言葉で き入れますよ。 先から戻った頃には、 カミの宗教改革による社会の平穏化が実現して来ていま サナミさんが訪れます。 て来ます。 周りの人が止めるのを振り切ってイサナギさんが見たモノ 作業)に過ぎません。騙 リが冷めるまで、 毎日毎日1500 する程に、 心理的にも偏屈さが残ることだけでした。 社会不安が高じますと、 と。それは、 需要家が出れば、 立派に豊かに どうやって誤魔化すか? 1500 、それならば1500人 人の人を産み出し サナミさんは言うわけで 毎日毎日、 の悔みの念になりま 「どう なり得るのだ。 すでに、世の政情の治まり方は東北地方から (だま)された人々は、 たぶらかしの祈祷金取りの詐欺師 かしの所作です。 の新田開発の新村落に由来する数字で 供給者も出てくるわけです。 見てほ 0 した。その夜の夢に、 の人を毎日毎日産み出 した。 たぶらかして後に のミチ」を教えて行け だけの へをこちらの世界に 金銀を騙 いモノを、 イサナギさんも、 の父君の の強く信じ とあるご チン 取られ、美 トヨケ 亡き ま 31

東北地方) しました。 ヨケカミは改革を導入 トヨケカミは、 徐々に治まって来たと表現がなされました。 東北地方を治めてい して詐欺師 \mathcal{O} 介入を阻止する事に ま したから、 ヒタカミ

に言う村長さん) 地名もあって、 社会の安寧をヤス(安らか)とも言います。 1500の新田開発の新村落に、 社会の時代からは遠く年月を隔て (安らか)の語意に所縁(ゆかり) 合わせて、 をまず先に立てて主張 旧村落の各村々に15 3000 琵琶湖の湖東には野洲 1500 のカミ(リー カミヨ(上代 人のカフ があるようでは野洲川 カフ

て地方の治安維持に当たらせなくては立ち行かなくなりました。また のため ソヱ(副 の重さ)を数えるミチを立てます。 その実施の役目を果たすのが、 準国司) へ(検察官・検察官のような職責) が2名の合わせて3人のセットが組まれ (今現在で言いますと刑法 マスヒト(いわば準国

によって サガ 値に量り決める事が、 (罪の重さ)を数えるミチの要所は、365のガ 「アメのミチ」とし 誤って殺されてしまう事があったとしまし 基準になります。 ての値です。 3650 ガ (ツミ・罪) (ツミ・

カタキを取ればヲ(タマとシヰを結び付ける、タマノヲ)を解いて、 知らし (宇宙の めたのでした。 の源)にヒトの本体であるタマが還る事が出来る、 ア

で言いますと刑法に相当します)全国の各地のあまねくに行き渡らせた 後の事で さて、 た。 サガ(罪の重さ)を数えるミチを立てまして、(今現在

なると、 政り事 た。 縁関係も濃かったようでした。シラヒトから流し遣られ メは、 継ぎ子)が、 ヒトとコクミは、 たら、死罪に相当する事が明らかです。ところが、シラヒトとコクミは、 マテルカミのおキサキさんのモチコ、 します。 サホコ なっていました。 これは、サガ(罪の重さ)を数えるミチで、 クラキネとの間に産まれたクラヒメを、 のでした。特にシラヒトはおキサキさん達と兄妹であったので、 モチコさん、 クラキネ (まつりこと) の怠慢のために、 ついつい緩い刑罰に止めてしまいました。その後、また、 コクミの許に流しやります。 (後の、 今度は、 クラヒメをツマ (イサナギの弟)に取り入るために 大きな罪を犯します。 女性問題で ハヤコさん達が強力に助命嘆願を訴えたのでした。 を治めていたマスヒト かも知れません。 (妻) としました。 した。まず先に、 国家的な大混乱を招いた首謀者は、 コクミは指導者にあらざる行為を仕出 そもそも、 ハヤコのヒメさまにとっても親 マスヒトのソ 今度はコクミは妾としまし 国家的大乱とは、 罪の大きさを数えまし (準国司) あるい 異母兄妹です。 コクミのとってサシミ 国家を転覆させよう 利用した女性で、 てきたサシミメ のコクミは、 (クラキネの 国家的な大 問題に シラ した Ш

を押し流す大洪水にもなります。 り小さな流れを作 ますと、 小さなものです。 ります。 ます さらに、 それは、 例え大きな川であっても、源流を遡って行き たった一滴の雨水たちが、 小さな流れでも、 多くが集まると野 群れ

知ることなしには、 すと、全国的にミチが成り立たなくなってしまうのです。直し正すには、 前回は許されたのだからと、 たったひとりのツミ(罪)を許すと、我も我も特例に走ってゆきます。 ヒトの場合も (みなもと)から改める必要があります。この、 同じです。 洪水を止める事が出来ません。 この場合に限って特別だと、 言う理屈が通っ てしまいます。そうなりま なりゆき(経緯) 特例を設けて

仕組みがここに隠れています。過美には、 ゆけるのです。でも、 ヒトの向上心は大切な働きです。向上心があればこそ、より良くなって 付き纏います。そこで、衣服の過美を防いで、生活自体の防御を図るヲ さて、ヒト(人)のこころ(心)を、 リ(衣服の決めごと)を定める事にしました。 生活自体が苦しくなってしまう事を防ぐための決め事です しまい易いモノです。もっと良いモノに憧(あこが)れ 結果、副産物として、 観察しますと、 生活自体が苦しくなる不幸が 過美に流されても行き易い 過美に陥 常に、オコリ(驕 (おち

ヲリノリ(衣服の決め事)を説明しましょう。

巡らし。 を左右に投げ通して、 レヲサ ずつまとめてそろえます。それで、80の束をすべて集めてヘクヰ(向 こう端の杭)に取り付けます。さらに複雑な織り模様を入れるための「ア シルクで織った布)も織るわけです。 ヲサ ヲサを上下に振り分けて、その間に横糸を通します。カヒ(ひ・杼) (木綿・草木の繊維の布)の巾は、縦糸を800本です。 ヲサメ暮らして)、 (縦糸の制御道具) 「マキヲサ」【詳細は未詳】 横糸を一本づつ通して、 ユラ の本数は400になります。 (植物の繊維で織った布)も、 も用います。 ヲサメクラシ 織り文様を入れつ 縦糸を10本 (ヲサを、 キヌ(蚕 すなわ

の常用の着用物です。 〇本の糸を縒 (よ) り合せて織る布は、モノヌシなどのカミ(指導

た布を用います に使う布は、 半分の5本の糸を縒 3 り合せて織

9本の糸を縒(よ)り合せて織る布は、 ムラシ (連) やアタヒ達など

い中間指導者の常用の着用物です。

て織った布を用います モ(喪服)に使う布は、 半分の4本余りの糸を縒(よ) り合せ

(特殊技能者の長)などの常用の着用物です。 の糸を縒(よ)り合せて織る布は、 アレヲサ (村落の長)

つ た布を用います。 また、モ(喪服) に使う布は、半分の4本の糸を縒(よ) り合せて織

る布は、 本の糸を縒(よ)り合せて織る布や、もっと粗く太い糸を使って織 タミ(一般国民)の常用の着用物です。

を用います また、 モ(喪服)に使う布は、3本の糸を縒(よ)り合せて織った布

着用物としています。わたくし(アマテル) わたくし は12本の糸を縒(よ)り合せて織る布を常用 年の月の数に合わせるからです

た布を用います。 また、モ(喪服) に使う布は、 半分の6本の糸を縒(よ)り合せて織

りだと考えます 指導者や、一般国民に至るまで過美に苦しむことがなくなって宜しい限 こうして、 フユ (冬) (夏)には、 には、 財力身分に照らして無理のない衣服を着るようにすれば、 温かなユキを糸に撚(よ) 涼 しいヌサを糸に績 Ē ってユフを織り着ます。んでヌノを織り着ます。

だのに、 生活についてのそもそもの成り立ちが、 生活の原資を供給する生業(なりわい)に、カケ(欠損)が生じますと、 贅沢に走りますと、生業(なりわい)に抜かりが出てくるの 無きが如きです。単なるピカピカの浮付いた光り方でしかあり得ません まった事になります。 りますのが、正確なところとなりまし それが、逆に、過美に走ったと言う事を想定してみま ブルのようですね。 農業では、 各家々の台所事情を考えてみますと、 の耕作を主にして営んでいる人を例にしてみまし 経済事情において無理を重ねている事では、 外見だけ取り繕(つく)ろうと、 耕作の耕(たが)や 単に見ていますと、 過美の装いとは、 しに怠(おこた)りが生じ 成立出来得なくなります。それ こよう。 こ 危機的な見栄っ張りのことで この事を指し示し 破綻の入口に足を踏み入れて 美しく麗しいモノです。です 本来の美 綺麗に いしょう。 て来ます。 が常の事で しさの光は 言わば り立て

の取り沙汰に右往左往したり、過美な装いを取り繕(つくろ) からの誉め の言葉を貰おうとして、 の美しさを、 (たが) や. 愛 (め) で過ぎたりしてい (おろそ)か て居ますと、

をきたすものでし なるばかりですね。 (しさへ لے ょう。ブクブクと、 まして、主食のお米の生産も十分な労力が注がれる事もな地道な農業の地べたを這う労働が抜けてしまい事にたビロロ 例えたくさん食べても人の身体に付く栄養とはなり得ま 大切なこころがこもる(籠・こもる)ことの抜け去 食糧が足りるかどうか? が発生する事になってしまいます。 単なるカラ肥り(空太り)で、 あるいは、 食糧の不足生活習慣病 ハ々を楽しく

キ過ぎる(小賢し く欲求すること) 凶は、 ための、衣服の適正だらならば、結果と 秩序を乱すので、 な事が起こりません。 の繊維で織った布)を着ましょう、 行き過ぎた過美や贅沢が原因して に空ホコ の行為になり果てます。 い狡さ) 一般の国民は迷惑するわけです。 な決め事を定めたのです。 てのハタレ)事に走ります。そのコリ(空虚な誇り)の の発生は起きない事になります。 と言う事です。 そ の蔓延する世の中では、 ま タレは群れ の行く末が、 したね。 一般国民は、 過美に走ると、 タレの発生する その原因を、 集まって、クニ タレ (故な 防

通るのです。 ため つ クミ(恵み)も、 た布)は、 わたくしが毎朝にお祈りする時に着る、 の象徴です。 国民の生活の安寧と、 撚(よ)らない糸で織った布なればこそ、 ヲシヱ (教え) も、 長寿を祈る衣服です。真っ直ぐに、に着る、ハフタア(撚らない絹糸で織 社会の秩序もが、 スーっと通る 真っ直ぐに

錦)を着ます。ニシコリは、ユキスキ(アユキ・ワスキ、大嘗祭)のようらに、こころを込めての祈りのためには、ニシコリ(ニシキのオリ、 衣服です。 の時

ヲサ 3200はアシハラのもっとも豊かになった時の数です。(1500× 人づつに相当すると設定しましたら、800×413200になります。 れは、 また、 サヒラキを祭ります時に着用します。(ミー1 このアヤオリや、 り立ちに準(なぞら)えられるからです。 アヤオリのヌノ(布)は、 アユキ・ のタハタカミのワスキと、 ハ(羽)を800にします。 プラス200) ワスキのうちでも、 ニシコリのヌノ(布)の意味は、マツリコト(政治) を添えかけて、 て織ります。 4月中頃にハニのヤシロのサナメア メのタナハタカミのアユキと、 特にワスキを祈るためです 用いるヌノ ひとつのヲサハ 4と6とにフミワ アヤオリやニシコリは、 40、11521参照) (筬 羽)

語』にでる。詳細は未詳) ヤナギアヤの文様に ハナカタハーアカキマノリします。(ヤナギの直衣は、 ハナカタハ 中世の『栄華物

【詳細は未詳】。

ウチとヨコヘにバランスをうまく分けて織ります。 (恵み) がりの良し悪しを整える役目の の教えを伝え導く役目の 人です。 人です

このため、 で織る、 の祭りの時に着用するのがふさわ の重なることを旨とするのが、 織り行くさまは、 文様を縦糸(経) ゆく事に通じます。ヲサ(筬)と、 アヤオリや、 縦糸だけでなく、横糸も文様の織り成しに活用するタカハタ ニシコリ(錦の織り) ヨコへとツウチとが国を運営してヲサメ(治 いのです。 踏み分けてヲリヒメ ヲシア (教え) 導くことの意味 をもって、 アユキ・ (織りひ ワスキ

行きます。 マツリコト(治世)の仕組みも、 この、 ヲリ (織り)に合わせて為

結婚式の世話やなどもする役目です。 ひと手(1手)の指の数に想定します。 (織物)でのヲサ(筬) (言わば、区町さん)を置きます。 一般国民の男女のペアを、構成単位のひとつにします。これが、 5×80=400になります。 のヒトハ (1羽) 400組の単位に、それぞれア レヲサはオオトとも言います ひと手 (1手) にあたります。 5組の男女を、 が80組集まる レラ

きます。 ます。 コヘを1 を置きます。 レヲサの80集まるごとに、アガタヌシ(今で言うなれば、 一〇人づつ添えて置きます。こうしへ達にミチを教えて指導をします。 へが80人集まると、クニになります。クニごとにツウチを置 クニの司ですね、 これが、 クニツコとも言います。 ヒトヨミ【詳細は未詳】のモノノへです。 こうして、ミチを教えて治めて行きします。そしてまた、ツウチには、ヨ そしてまた、ツウチには、 ツウチは、80人の 市長さ

です。ツミの大きなモノを朝廷に仕えるオオモノヌシに伝える役目なの にまで上奏します。モモノへ達の800人を署管するのがオオモノヌシ 数えます。 オモノヌシには、 詳細は未詳】である ツウチの事を、 しも、 ロヌシも置きます。 添えのムラシも置きます。また、 悪事を働く人が出たならば、そのツミ(罪)の重さを アタイラ(ツミの値を知らせる) 大きな罪状だとすると、 して任にあたります。添えのふたりは オオモノヌシはハタノヌシと言う事にもな ムラシも、 コトシロヌシも、 ツウチを経てオオモ オオモノヌシの代 とも言います。 ノヌシ 理 オ

さを数えての大きさで決めます。 ミは、小さな単位の範囲で処罰をします。大きなツミに成れば成る程に、 大きなヲヲヤケの場で の大きさを読み数えるわけですが、 トガは比較的に重いツミ(罪)を指します。軽い の処罰をします。 その、 段階の敷居値はツミの重 サガは軽いツミ

5組 を数える時の の男女カッ O ガまで ツミの計量の単位) ップルの内での注意や叱ることですみます。の軽微なツミでしたら、アレオサ(言わば、 区町さん) は、

処罰をします。 0 ガ以内のツミの重さでしたら、 〇ガを越えた重さでしたら、 アガタヌシが、ツエ(杖)打ちまでのしたら、アガタヌシに報告します。9

打ちと、 बं ु 〇ガを越えていましたら、オオモノヌシに処分を委任することになりま くになりますと、クニからの追放処分です。さらに、 ク二払い に拘留しておいて、クニツコに報告します。クニツコが処罰出来るのは、 さらに、 アガタ払い (国外追放処分)までです。100ガ程度でしたら、 ツミが重くて100ガを越えていましたら、 (市域からの追放処分) に相当します。 ツミが重くて20 ガトヤ(牢獄) 200ガ近 ツエ(杖)

を抜いて、イレ す。300ガにもなっていましたら、カミ(髪の毛)を抜いて、ツメ(爪) ツミの重さでしたら、シマにサスラス(遠島追放の処分)ことになりま らせる処分です。 てしまった時の状況から再度検証をし直します。そして、200ガの 200ガを越えるツミについて、オオモノヌシは、改めてツミを起こ レスミ(刺青)を入れて、 天下放浪に放逐します。

さらに、360ガにも達しましたツミでしたら、これは死刑に値します。 この場合には、 なお、言い添えておきます。モノノへ達よ、自分たちの判の場合には、オオモノヌシの直接の認可を必要とします。

ミを斬ってはなりません。 自分たちの判断だけでタ

なものなのです。 タミは、 わたくし (アマテルカミ) にとっての (孫)」 のよう

「マコ(孫)」であるタミを守り教え導いてくれるクニカミは、 マテルカミ)の 「ワガコ(吾が子)」のようなものです。

決してモノノへ達の無理強いは しないで下さい。

クニカミのコ(愛くしい子供) タミのタラチネ(慈父慈母)のようなものです。タミは、 に相当します。

自分の子供であったとしても、 ラヤ (親) が斬る事は いけませ

で、ツミになります。

親族間の殺人についてのツミの重さを掲げます

3が子(実子)の殺傷は、180ガです。

ママコ (義理の子) の殺傷は、270ガです。

しのツミは、 Oガです。

子供を儲け いツマ(妻)殺しのツミは、 一般殺人の場合と同じ

で、360ガです。

アニ (兄) 360ガです。 兄弟間の殺人も、夫殺しも、 一般殺人の場合と同じ

いなかった場合は、 他家扱 いにすべきです。

子供を儲けたら、親族の扱いです。

しがあった場合でのことにも、 これが適用されます。

子供を儲けていたら、 360ガのツミの重さです。

ママヲヤ の殺めたツミは、 重くなりまして、 400ガです。

さて

せん。 です』 が通らなくなってしまいます。 アメノリの法規を、 (法規)をちゃ ただ、 んと守るのが、 。それでは、ハタ(織機)は織ひと組の男女が守らなくても、 ハタ(機)のミチを通す前提ハタ(織機)は織り上がりま のミチを通す前提 ヲサ

衣服の取り決めの解説をなさいました。と、アマテルカミは、治世と、ヌノ(ち 布 のハタとの関係をふまえて

には、 ここで、 『むかしには、 死刑にも罪状が数えられる程のツミが起きます。アラコオキテ オオモノヌシの2代目のクシヒコは、質問をしました。 乱れが起きなかったと聞いたことがあります。 今に現

【詳細は未詳】は、 一体どう言うものだったのでしょうか?』

アマテルカミは微笑んでおっしゃいますのでした。

『あなたは、 社会的な背景につ 即座に大昔の実情を知りたいようですが、 いてを先に説明し ておく必要があるように思い るように思いま、経済的な背景

まことに、明日の食糧にも事欠くようにもなる時代の到来もあったの 然災害も無いとなると、 でもないような有り難みも感じることも少ない事でしょうね。ところが ウヱ(飢餓、 た。このために、衣服の決め事をよくよく考えて守って欲し 酔い痴れます。 さて、 ホコに替えて 後の世には良く治安も治まっているので、 飢え)の時代も長くあったのでした。毎年が豊作続きで自 しかし、 ルギを作らせた事情を省みてみましょう。 人々はオコル(驕る) 農業生産の不作の年が続く 平穏な社会とは、 こともあります。

樹を伐 命が潰(つい 当時の警察力の象徴はホコでした。悪事をした罪人を斬って処罰する、 ホコロバ あると。 この、 そ 考えたので ばかりで、 ス (亡ぼす) 意味合いを警察力の象徴の武器に、 田も増加 人口増加に伴うほどには、ミチを教え広めゆ えて自ずからに枯れて行くのだと。 した。 に。 察力の強化を図って行くだけですと、 子孫の時代での文化・文明が衰退に向かうばかりで (斧) に良く似ていました。 ツミ(罪)を犯し悪事を働いた者は、 の意味の、 、オヒトクサ(国民) トミを育てるには長い時間がかかりますか 命名がホコの意味でした。 具(そな) わたくし さも、 将来が暗く えさせるべき 枯れ木のよう (アマテル) 社会的な生 ホコの形は 、なって ·ドはお

このために、ツルギを作らせたのでした。

冶職人) ま その精神とは、 カネリトに次 当時、 した。 すると、 に作るべき武器の精神を教えて、 カネリト 水をも別ける程の鋭利さでした。 のように教えました。 左右の違い (鍛冶職人)の秀でた人の ことです。 打ったヤ わたくし(アマテルカミ、本制作を依頼したので そこで、 10人に、試作をさせてみ 刃 この、 (アマテルカミ) は特にスルト カネリト 鍛

知っていないようですので、 うとするのは、 (ナンヂ (汝) ただ、 この精神を込めたいからなのです。 マテ 打ち鍛えたヤイハ (左右) これを、 のイキ(活き)と、 (刃)はとても鋭く鋭利で優れたも 教えます。 今回、 カレ 作り直しをしている。 の事を

活き身に近くありまして、 の目で打ち鍛えたツルギですと、 てくる季節です。 夕 です。 活き身です。 の目は、 怖ろしい事です。 の、 ツミの有る 春 枯れ身にはウトキ(疎い) (左) の目を入れて打ち鍛えたツルギは、 の季節にあたります、 ツミ無き人を間違って殺 人は、 枯れ身です。ですから、 樹木も活き活きと ものです。 かねない タ(左) ツミの

葉も枯れ落ちる季節です。 の目は、 ち鍛えて下さい ツミの有る枯れ身を好みまして、ツミの無 治世のタカラモ アキ ツミの無い (秋) ウトク(疎い)なります。 の季節に相当します。 人は、 /に相応 活き身ですから、 いツルギです。 カ (右) 樹木の木の 台 の 目

と、言いましたのでした。

カネ は深く思って1 〇〇日の間モノイミ(精進

斎)を重ねて清めた後、 石の眼ひとつで8振りのツルギを打ち鍛

そこで、ミコトノリをして、褒めたのでした。

国家も、このツルギのお陰で良い世の中にと治まるものでありまし ルギの名前を、 いま、この8振りのツルギは、 の身にもこころにも、 ヤヱガキのツルギと名付けます。 まさに治世のタカラとして良いモノ 良く適(かな) ったモノ ンです。 。 よう。 天下

また、 カネリトには、 アマメヒトツのカミの称号を授けます。

このツルギを臣下に授けて平定をおこなったのでした。ハタレの騒乱の 後の事になりますが、 の成功は、 ルギを授けたのは、 ヲハシリとの同 ツルギに込めた精神の成功とも言えましょうか。 人物説の根拠)でしたね。 カナサキ(スミヨシ)と、 ハタレが湧き満ちて、 国内の騒乱に陥った時、 ムマサカミ (フツヌ)。あの時

りまし ヤヱガキのツルギの働きは、枯れ身は枯らして、 だ。 活き身を活かす事に

ません。 例えば、 ツミ な生命は断ち切られているのです。 の作物を活き活かすためです。ハタレの騒乱に陥って犯罪を犯 の潰えわけですから、 すでに、林を切り拓く決断をした際に、 林を伐り拓(ひら)く時のように、 、されなくてはなりません。 思いはこの世に残らないのです。 次に、創造し、 斬るべき樹は伐らね そこの林の樹は社会的るべき樹は伐らねばなり 。すでに、社会的な生って犯罪を犯した者の、作り変えてゆくため

ノルギの、名前の意味は、

て まって いる「ア 樹のヨハイ(齢)が社会的に尽(ツ)きてしまって、 (謝意的意味)」の「ツ(尽きた)」の意味です。

します。 シハ(柴)の乾き燃えるの、 燃え盛るの 「ル」の状態を

など最早ないのです。 「ギ」とは、 「ギ」と濁ったものです。 ツミの無い「キ (樹)」 すでに枯れてしまった「ギ」 2てしまった「ギ」には、思いツミの付着に拠って濁音を含

ツミの有る「ギ」が、 燃えて清められるさまを表

ヤヱガキの意味は、 ツミに陥(おちい) るのを防止するための命名で

重にも垣根を廻(めぐ)らし 罪に陥ります。これを、 美な生活を送るようになってゆくと、最後にはツ 若(も) しも、 防止するためのカキネ(垣根)なので タミがオコリ(驕り) て、タミを守るための 意味がヤ ルギを受けるような犯 のこころに走って、 すね。

重に厳し ツカサの ツミも大きく数えなくてはなりません。社会的影響力に見合った責任が、 て下さい はならないように、 カミにはあるのです。 調査と吟味を重ねます。その、タミを活かす事に主眼を置い のオコリ(驕り)は、 自重してミチを守って下さい 吾が子とも思うトミよ、 ツカサのカミのオコリ 社会的影響が大きいですから、 オコ (驕り)には、 (驕り)

だ。 また、 すべて、 ここに、 ヤヱガキとは、 オオモノヌシの2代目のクシヒコは、 自分自身を守るためのモノなのです』 し上げるの

教え頂けませんでしょうか?』 ことを、聞いた事が御座いました。 『ヤヱガキの、 名前にはハタレ の騒乱や眩術などを破る意味 このあたりの事情に付きまして、 のあっ おた

『ヤヱガキには犯罪の発生防止の意味のものもあります。 アマテルカミのミコトノリで、 説明がなされたのでし

ります。 また、 端起きてしまった、 騒乱からは、 国家・朝廷を守る意味もあ

ハタレ の騒乱の時の事で説明しましょう。

づけることを、 来たならば、 さらに、 方のイクサの我が身を守る身の垣と言う意味になります』 達は、 オオモノ タチ(ツルギ)での白兵戦になります。この時ツルギ 色々な惑(まど) 弓矢で防ぎます。 良く解りました。 ヌシの2代目のクシヒコは、質問を深めます。 それでも、 しの眩術も使います。 さらに、 ハタレ達が近付い それらを、

連があるかと思いますのです。このあたりの、 係があるわ カガミの名前の事が、 ヤタの けですが、 カガミの ようか?』 ツルギのヤアガキも国民を守る意図であれば、 ヤタ」は、 どうも気に掛かり出しました。と、申しますの 国民の意味の 兼ね合いは如何なところ 「ヤタミ」の言葉にも関

マテルカミは、お答えになられます。

気持ち)を入れる容(い) カガミと言うのは、 ヤタ(全国民の意味) そもそもが、 れ物としての想定で、 のカガミと名付けたのでした。 タミ(一般国民) 作った物でした。 のこころ \bigcirc それ・

です』 (敵なすも を近づけるのを防ぐ目的が主な所

クシヒコは、さらに、詳しく尋ねます。

『ツルギの名前につい その、 上に冠せられ ての、 ての 「カキ(垣根)」の事は、 「ヤタ」 の意味に付きまして詳細なお教垣根)」の事は、良く理解できま

11/2016

っっこ シコミは、フノニコンへを戴けませんでしょうか?』

を覚えた マテル クシヒコの質問に、 しくアマテルカミがニコッとなされての、 い思いが込み上げて来るの ご回答

意味につ こいてくれました。なすところ・ふかく 【 類 語 】 しこ)も、 \subset

いては、 ルギに冠して 昔のことから話を始めねばなりません の呼び名に付けた「ヤヱ」という言葉の意味に

ので 乱の最中(さなか)、 全国の各地へと教導するに それぞれ深くお悩みの事が、 りの意思疎通に障害になったことでありましょう。 くお考えになられ に治めようとしても、 いです。 地方の出身です。 した。 「あわうた」を教えて 「あわや」とは、 がチチ・ 言葉の通じにくさが障害を起こしています。そこ でした。 ハ上のイ うい 「あわや」の世の中の実現に努められま 天地の我が身・ サナミは東北地方の出身です。 ちなみに、チチ上のイサナギは北陸・越 (方言) の隔たりの大きさが、 のフタカミのイサナギ・ 言葉を直さなく 拝察されます。 我が家とも言うような意味 フタカミのおふたり クニを平和に安寧 世情 おふた の混

意味します。 「あわや」 「あわや」 \mathcal{O} \mathcal{O} わり 「あ」 ははは 家でもあり、 ツチ アメ Ξ 地 とチチ(父親) とはは(母親) 国でもあり、 我々自分自身をも を意味 を意味します。 します

モノと、目にも見えて来るモノ て発せられて、 して整えるため、 言葉の概念は、目には見えないモノですが、 実際の実物として地表に響き渡ります。 ヲシヱ(教え)収めるタカラものが言葉です。 との融合体が言葉ですね。クニを国家と 喉(のど)から音声と 目には見えな

と言って表現されます。 くなります。国民の 国 (琵琶湖沿岸) は 「アワウタ」を教え広めることで、 や」の言葉には、 軒の事をも意味しています。 一般のひとり 全国をあまねく捉えて 「アワクニ」と呼ばれる事になります。「あわや」 また、 勿論、 ひとりのアオヒトクサを「や 安寧と平和を取り戻したことで 「あわや」の「や」は、 のクニ(国家) の意味が強 国民の家 たみ」

アマキミであるわたく (アマテルカミ)に当て嵌 (t

たみし たみし \mathcal{O} の言葉は、 の言葉は、 ヲサム しの事を指します。 (教え治める)意味です。

すから、 天地の中心のミヤ(皇居、「や」)に居て全国民を教え収める

、百千万、 ます』 やたみ」 沢山)に重ね合わさった八重の枝の節節の垣根のことを意味み」の「や」の言葉は、単に8などではなくて、モモチヨロ

2代目に任命されて務めてい る思いがしたのでした。と言いますのも、クシヒコは、オオモノヌシのアマテルカミのこの詳しい解説に拠って、クシヒコは目から鱗の落ち カオの笑顔で感謝を申 「ヤヱガキ」の深い意味がやっと解ったのでした。当然の事に、 し述べました。そして、 たのでした。 でした。当然の事に、ヱミス自分の役目のツルギの名の 誓います

アカキ」の意味を考え続けて来ていましたが、 『むかしに、オオモノヌシの職責を拝命致しまして、努めつつも、 今日、今ここで 「ヤヱカキ」が解りました。 解りませんでした。 よう ヤ

ヤアカキ」とは、 モノノへ達をも意味していたことになるわけです

国民を護る事でもあるわけですね。この精神からしまして、わたく それが、「ヤヱカキ」でし モノノへ達のひとりひとりが護り、 し続けて行きたいと思います』 してもなお世世のスへ ラ(アマキミ) たのですね。クニを護り、キミを護ることは、 オオモノヌシのわたくしも護る のカキ(垣根)として、

と、クシヒコは強く誓うのでした。

は ここに、 『まったくもって、 い事です。 アマテルカミは、ミコトノリにて、おっしゃいますのでした。 良く理解出来ま した。 また、 キミを護るその決意

そこで、褒め名を付けたいと思います。

カミ」の称号を貰っていましたね。 以前に、 **≅**マコ (1 〇代ア マキミの弟のニニキネ)から、 「ヲコヌシ

特上の褒め名をあげましょう。また、フタカミ(イ

サナギ・イサナミ)から授かったサカホコを、 サカホコの持つ精神は、 わたくしは理解 しました。 あなたに譲ります。 幸い

その上に、さらに、

(中央集権の整って来た後の天皇陛下)を護るヤヱカキのヲキ(中心人 トチ(「トのヲシテ」)の教えに適う素質があったのですね。 クシヒコよ、 生まれ付きからに素直なる嬉しい人ですね。 であると認定します。 して授けます』 そこで、 称号は「ヤマト それで、 スヘラギ

たまま顔を上げること 特段のお誉めに預かったクシヒコは、 が出来ませんでした。 びっくりして、 傍 (そば) 、おそれて、伏し

喜んで、「さあ、 拝領してくださいませ」と囃

クシヒコは、 身に受ける重大さのことに、 余りの大きさに金縛りにあ

近侍 のアマノコヤネは、 助け舟を出し ました。

ਰ をひとつにしてキミのためクニのためマメ(忠節、 しっかり どうぞ、 と連携をとって、 こ心配なさらないで下さい』 まだまだ若輩ですが、 キミを守ってゆきます。 コモリさん 至誠) (クシヒコの継子) コモリさんと、 と為し行きませりさんと、心

クシヒコは、 ノコヤネの言葉に後押 しされて、ようやく、 アマテ

カミからサカホコを拝受することに意を決しました。 アスカキミ)を支える重臣がフトタマとカクヤマです ヤマにおっしゃいま マテルカミは、 、サカホコを、 した。 クシヒコに授与した後に、 10代アマキミの兄の方のホノアカリ フトタマと、

クヤマは、 コの名代として代々マツリ って下さい』 トタマとカクヤマにお願いしておきます。フトタマは、 マコ モノ ヌシとして、 のテルヒコ (政治) (ホノアカリ) (政治)も執(と) ノへ達を司って護りの任に の左右を輔弼(ほひつ) って参与して下さい。 キミのテルヒ する あカ

そ っておっしゃいますのでした。 また、 アマノコヤネと、 コモリ (3代目オオモノヌシ) に向

左右を輔弼する二人のトミ(臣)よ、 『今の 10代アマキミ(古代の天皇陛下) して護りの任にあたって下さい (政治) も執っての参画を為して下さい。 しっかり務めて下さい。コヤネは、 のニニキネ(キョヒト) コモリは、 代々モ

らして下さい』 協力してキミを守り、 クニを守り、 タミ(国民)に幸せをもた

スカミヤ)と、 そして、み孫におっしゃいますのでした。兄のテルヒコ(ホノアカリ 弟のキヨヒト(二二キネ)のみ孫にです。

かに暮らせることでありましょう』 『あなたたち、の、マツリに対しての誠実な態度が特に重要なのです。 マのまことに到達するに至ればこそ、 「ヤタ」 の全国民は安寧に豊

アマテルカミのお言葉は、 ミマコたちへ の思い にて締めくくられたの

クシヒコは寿命のほど無き事を覚えたのでし

(洞に 生きながらに入って、 キミを守り、 っくりと考えを見定めてみたのでした。 (山辺)に新たにトノ 、後の世をまでも守る)をおこなう事にしクニを護る。この誓いのままに、トヨケノ (大三輪神社か? 大和

たら、 計算) 0 そです。 の世世を守りゆかんと思います。これこそアメノミチの実現に資するも でありまし トヨケノ になりまし の歳もすでに、 ヤマ 寿命もそろそろ、 護りに徹することで世世の守りを遂げ行けるこ (ミモロヤマ、 1280 〇〇年 のようです。 三諸山) (マサカキの 後の事を思いまし スヘラギ

クシヒコは、 ミモロのヤマにホラ(洞窟)を掘り、 アマのサカホコを

禁足地が伝えられています。 携えつつ入って行きました。 の
竟
(つい) の地であったでありま この場所が、 今現在に、 大三輪神社の本殿の内側には おそらく、 クシヒコのトヨケ

でした。 ろ素直な人を見分けようと、 素直な人を見分けようと、スギ(杉)を植えさせまして、時を待つのクシヒコは、ミモロのヤマのホラにて、静かに時を待つのです。ここ

ワケミ(ミを別けて)生まれ合わせたのだ」と。 のだと。 並び賞されていた人物だったのでした。 ヲコのミタマと賞賛されたクシヒコという人物は、 アマテルカミに次いで、 ア マテルカミの 「ヒ(太陽) お生

モリカミと呼ばれました。 クシヒコの後を継い でオオモノヌシに任じられたミホヒコは

との間のミコ 継ぎ子です。 アメトマミ) コモリ クマノク オオモモノヌシ (皇子) が選ばれ スヒは、 れました。 の添えのソエモノ アマテルカミとトヨヒメ トマミはクマ クスヒ の役職にはト (アヤコ) (ヌカタタ) さんの

オオモノヌシの代理の コモリの次男です トシロヌシは、 ツミハが選ばれました。

の 3 〇代アマキミの弟の方のニニキ

11/2016 46 / 77 ページ (C) 池田 満

ハラミヤマ

ました。 始まりました。また、 治世はとても良か の年月は3ススと2050年(マサカキ暦での計数年) んは同じぐらいに滞在して、 そこで、 ました。また、旧時代からあったツクハのミヤにも、ニニキネさ善政が築かれて行った石据え(礎)は、ニハリミヤのミヤ定めに アマキミ(神武以前の天皇陛下) ニニキネさんは、 ったのでした。国民には広く豊かさが及ぼされま 現状をじっくりと吟味してみる事になさい 人々を教え導びいて行かれたのでした。そ 弟の方のニニキネさん になりました。

料にも、 規模の田圃)はミツ(農業用水)足らず、 が進みましたところ、人口の増加に行き至って来たのでした。 て来つつあったのです。「タミ(国民)のふゆる(増える)ほど、 人口増加が起きて来ますと、昨今におこなった新田開発でまかなえる食 (降水量の まう」 新田開発によって、 これが、 は増えぬゆえ、 不足をきたして来るのでした。これが、 少ない年) ニニキネさんの、これまでの功績でした。さて、 カテ とても、 の降らぬ年、 (食料)足らず、 多くの食糧増産が成し遂げられてきま タネ(種)をも滅ぼすほどになっ タカタ(高所の田圃)はアメヒラハ(平場)のオタ(小いゆる(増える)ほど、夕(田 新たな社会問題になっ 爆発的な 食糧増産

する事が出来ます。 ツミ(堤、 ケヒは腐り落ちてしまいます。そこで、 での導水で、灌漑の目的は達せられました。ところが、 さて、 した。この、 どうしてゆくか? そこで、ニニキネさんは、 用水路) 灌漑用水に用いることを試みます。 やり方を以ってすれば、 を掘り築いて、高地の耕作地を開く新方式を開発し 全国各地での、 イセキ(堰) カケヒ を川上に築き、 (竹や木での樋) 数年もするとカ 食糧不足に対応 高所から川水を

に広めて行く許可をなかなかお出しになりませんでした。すでに、ホノ ニニキネさんは、 カミに詳しく企画を説明しましても、ところが、 (伊豆) からのカモフネで、 ほとんど次代のアマキミとしてアスカにミヤをお持ちだ アマテルカミに説明をしに行くことにしました。 (伊勢) に向かいます。 アマテルカミは全国 アマテ

ニニキネさんは、 イセの地に逗留して実証の試みを始める事に

ヤマタの ノの上流域のミヤカワ(宮川)にイセキとツツミを設営しま

ニキネさんは、さらに他にも、 の成果を実際にご覧になられたアマテルカミは、全国巡幸のお許 まして、5年のうちには十分な実りを得ることが出来ました。 灌漑を巡らしまし 18か所にもイセキを作って行きます ヤマタの微高地をタ (田圃)

島巡れ」では雰囲気が違います) (全国津々浦々 (巡幸せよ)』と。 (直訳 の

りを立 周回の周期は約29. 9日の月なのか、 陽暦の良い 297750 ミのミヤ お月さんの ラクモの後任 しま ヨミのミヤの名残だったのかも知れません です。 したら、 太陽暦とのズレ ムメ てまして、 コヨミ(暦)を毎年作るところです。 の任務だったのでした。伊勢には月読みの神社が2社あります が所です。 これを、 ニニキネさんは、 満ち欠けを見たら、だい 人事を、 海の満潮や干潮の具合も大体分かります。これが、 \Box 12夕(枝)の38年のキサラキ(2月) の花見のミアエ (ついたち) 毎月の大 太陽の巡りをべ 決めるのは天体観測と計算が必要です。それがコヨ がひど ですが、 5日ですから、 マテル 小を計測し くなります。 月立ちの日です。 何年かするとウルウ月を入れて調整しな 準備を整えて、 カミがお決めになりました。 (宴会) たいの月の内での日がわかるのです 30日と29日の大小 て決めなくてはなりません また、 太陰太陽暦は、 全国巡幸に出発をします。 作るコヨミです。 月ごとに30日なの 満月ならモチで ヒヨミのミヤ 1日のことで 主に月の巡 で調整する ヒヨミのミ **ब** つまり、 太陰太 そう 月の か2

8代 ケカミの の事でありま リさんに随行 オモイカネさんも、 V ヒヨミのミヤは、オモイカネ(アチヒコ)さんが任じられました。 つ カミのアマテ イカネさんの、 なります。 したでしょう。 息だったこともあって、 してアスカに来ていまし その後、 9代オシホミミさんに仕えた後、 に引き継ぎをし ルカミの初期の時代の事でした。 新都の造営の任務にも就くとともに、 高齢になりて タチカラヲは、 その後に、 ヒヨミのミヤにて ムラクモさんの た。 の引退の後は、 イサワへのミヤ遷 いました。 初代ヒヨミのミヤの ヒヨミのミヤには、 勤めを果たされ ですが、 あとを受け ハラミのミヤ 〇代目 ムラクモは (遷都) タチカ る ノア 0 サ $\dot{\exists}$ D が

ヒヨミのミヤの仕事(コヨミの作成)に就いて 二二キネさんの全国巡幸にお供をすることを強く願いまうのミヤの仕事(コヨミの作成)に就いていたタチカラヲ

クモをア スカのミヤから呼び戻して、 いにアマテルカミは許可をお出しになります。そうヲは、二二キネさんに私淑している間柄です。 おっしいますのでした。 そし タチカラヲ

その、目には見えにい根底の奥を築く働きであったのでした。 ヒヨミのミヤ 「アメフタヱ」の名前です』 ち(汝)ムラクモよ、 のです。それは、カガミの働きを守り愛(いつく) の再任にあたって、褒め名をあげようと思います。 あなたのコヨミを作って来ていた功績は しむ働きの、 そこで、 それは

ムラクモは、 アメフタヱさんと呼ばれるようになります。

(アメを再び得る。か?)

れます。 終章の巻き)を授けられます。 やいますのでした。 マテルカミは、 さらに、 ツルギをコモリ(3代目オオモノヌシ) ニニキネさんに、 そして、 「カクのフミ(ミハタ)」のトメ(最 カガミをアマ ノコヤネに授けら に授けて、

オミ (臣) のでした。 した。そして、 『先には、 それは、 となって補佐しています。 ミクサのタカラモノをオシヒト フトタマとカクヤマのトミ(臣)二人がハネ(両翼) ミマコ(み孫)の兄のホノアカリが譲り受けたの (臣) 二人がハネ(両翼)の(ノアカリが譲り受けたので) (9代アマカミ) に授けた

して、キミのキヨヒト(二二キネ)と、こころをひとつにして、 さて、弟のミマコには、 コトリに例える事が出来ます。 ハネ(両翼) を執り行って下さい。 のヲミ アマノコヤネと、コモリ(3代目オオモノヌ (E) こころをひとつにする、 となって補佐にあたってください。 その形は、 マツ

足は、 です。 モノノへたちです。 左の翼はカガミのトミ コトリの胴体はヤタミ(国民)です。首から頭はキミ(アマカミ) (臣) です。 右の翼はツルギのトミです。

べ達)が仲違いを起こして ます。 ギのヲミが後継ぎをなくしてしまったりしましたら、モノヘ 左右のヲミはとても重要です。カガミのヲミが後継ぎを失ってしまっ アマカミの継承がうまく行われなくなってしまい しまいます。この結果、 朝廷が衰亡 ます。 (E) W

民を守る仕事です。 言わば春の季節のように生育することにこころを注ぐ仕事です。 つまり、 ラミは、ヤタラミとも言いますように、国民の幸せと元気さを

司って、 左右のヲミはそれぞれに役目を果たしているのです。 カキヲミとも言いますように、罪悪を犯す人を罰して平安を 言わば秋の季節のように、 実際に現場にあって働くモノノへの力を守る役目で 悪人を枯らして ツルギ

9

クサタカラを授けるのです。 こころをひとつにして貰うためです。この精神を記し染めたアヤ(カ 三種類の役割分担でマツリ この精神は、 (政治)をおこなうために、 長く国が安定して営めるよう

ました。セオリツヒメ(もうお亡くなりのはずなので代 みカガミをカスガ (アマノコヤネ) カクのミハタのフミ(文書)を、お手渡 みツルギをコモリに授けます。それぞれる てから授かるので にお授けになりま しでニニキ

度な精神が込められているのが「ミクサ タカラ」 カラ」を「三種神器」に当てるのはまったくもって酷(ひど)い誤訳 『古事記』『日本書紀』 にいう三種の神器とは、 でした。「ミクサ 似ても似つかない にタ

行きます。 に生まれたお タチカラヲは、 を付けます。そ ようになって オオモノヌシのコモリが続きましてミクサタカラを入れたヒツを守り こうし 馬の80人のモノノへたちがいます。 (み輿) トヌシ 授与されたミクサタカラは、 いるもの)に入れて、持ち運びます。 して、サキカリは、志願してきたタチカラヲが立ちます シサ オモイカネとワカヒメさん(アマテル ニニキネさんのお乗りになってい その後にはカツテが続きます。 /ヲの子供) アマ ノコヤネです。 のお子さんです。 ヒツ(木製 その るヤフサのミクル カツテはカツラキ 一行を囲ん カミの妹) \mathcal{O} EΠ の後に、 しにはサカ から担げ との間 で守る 3代目 +

ども改修し **ち着くことになさいま** 朩 さて 猪名川 ノア カリさんを訪ねます。そして、 水系との連絡をするわけ ます から出で発ったニニキネさん 淀川を分流してカンサキ で 水路をとって、 (後 の時代に和気清麻呂な 一行は、 ニシ アスカミヤ を掘りま ミヤに落

ます C ミネコシをお使い下さいと捧げてくれました。ミネコシでシラ マナヰ コヱのネのクニに至りますと、 シラヤマミネには、 を巡りますと、 (アメのマナヰ) いでです。 急坂でも斜めにならなくてとても乗り イサナギさんの姉上のココリヒメさ 石川 にてヌサを納めてお参りをなさい 川県白山 ニニキネさんは、 アチハセさんが迎えます。 市の白山比咩神社で つ

いますのでした。

ちら とクニへの土産物にしたのでした』たのでした。ウケステッにと・・ーーマ のお礼にと、 とが多く、 クロソ 『このミネコシは私が作りましたのです。 でした。ウケステメはとっても喜んで「ハナミのモモはめずらし (日本) の交友にありました。ウメステメは、西のカ(中国大陸)のこのミネコシは私が作りましたのです。その成り行きは、 ウケステメはかの国で苦労したようです。険し ミネコシを作って子供を育てたとの事でした。ふたたび、 に来た時に、 ミチミのモモ(3000個もの実を付けるモモ)を進呈し ミチを求めに来て、トヨケカミに良く仕えたこ この契りを結んだのでした。 て産みましたるミコをコロヒツクニのキミとなし ミネコシの作り方を教えてくれました。 山岳を越すこ とから、 です。

新名称を付ける事に の話を聞いたニニキネさんは、 ました。 それは良い事ですねと、喜んでクニの

してはどうでしょうか?』 コヱのネの国を、 ミネコシの謂 $\widehat{\wp}$ わ)れから、コシクニの新名称

(越前・越中・越後) 提案しまして、 ココリヒメも喜んで受け入れたのでした。 とは、 ミネコシからの命名でした。

かわれます。タカシマは、初代アマカミのクニトコタチさんの建国の由ます。ムメの花を折りかざしてミネコシにお乗りになってタカシマに向 会)で、二二キネさんは良い日だと笑顔でおっしゃいまして出発になり の深い所です。 ヤヨヒの3月のモチ(満月) の日に、ムメ(梅)の花見のミアエ

は高島市安曇川町三尾里に祭られ を始めます。大田神社は高島市新旭町太田に祭られて 確保です。 中心とする地域)を新田開発の事業を起こします。 島市新旭町饗庭周辺)や、ヨロギの場所(高島市西万木から青柳付近を 不さんはサクラを折りかざしになられます。そして、 タカシマに至りましたときは、サクラの開花でした。それで、二二キ オオタやミシマ (ミノシマ) ています。 イカワ れています。箕嶋神社(用水路)を作る工事 先ずは、 クマ ノの場所 灌漑用水の

に向かう事になります。 (当代はサルタヒコ) それは、 の工事の着工を見届けた二二キネさんは いよいよ、 があります。 クニトコタチさんの直系のご子孫の見届けたニニキネさんは、次に、歩 待ち兼ねてい しておい の白砂の上に昼寝 たシラヒケ(サ から流 タケ山 での、 ウカワ れ出るオト していり (高

ਭ੍ਹ その、オトタマカワの白砂にて、 クニトコタチさんの由緒のお山です。 クニトコタチさんの山陵なのであろうと想像されまさんの由緒のお山です。それで、タケ(岳)というの シラヒケ (サルタヒコ) は待ちく

るのではあるまい 強硬な事を、と危惧するのでした。 二二キネさんたちの一行でした。 何か言わ

サキカリ(先駆り)のタチカラヲが怖(お)じ気付いてしまいました。 がっています

の長けはソナタ カカチ(赤く光って) 『遠目にもチマタカミのシラヒケさんは、恐ろしそうに見えます。 (ぎらぎら) です』 です。 般人 鼻の高さはナキ の平均身長は8夕) (구) (번 もあり、 もあります。 目はカガます。顔は

そこで、 女性を言う リをおっ タチカラヲが怖がってしまうのですから、尋常なことではありません ニニキネさんは、 しや います。 に優しく問わ 一工夫をお考えになりました。ウスメ(若 めてこそだと。そして、 ウスメにミコト

図を問うてください』 『あなたのメカチ【詳細は未詳】の優れた能力で、シラヒケさん 0

寝ぼけのシラヒケさんでした。 ただしてみよう、 が笑い この、 ニニキネさんのミコトノリをうけて、このウスメさんは閃きま (品)を作って、 کے シラヒケさんに迫って行きました。 そして、 みんなの怖がるシラヒケさんの本心を問い 胸元をあけて、モヒホ(裳紐)を下げて 何の事だかと、

かくも、そんな事をするのは、 何のためか?」

いました。

そこで、

なのでしょうか? 『アメのミマコのニニキネさんがミユキ(御幸)そこで、このウスメさんは問います。 その前方に、 居て、 何方様 あなたは阻もうとしているのでしょうか? (どなたさま) であるのでし をなさっておられま ようか?

シラヒケは答えます。

『カミ (アマテルカミ) と思ってウカワ(高島市鵜川)に特設の仮屋も用意し て • 長田神社) Ŏ, 歓迎の宴会の準備も済んでいます。それで、 SIIPIO, 待ちくたびれての昼寝でした。 のサルタヒコと言います』 良きミユキ (御幸) がなされる

この意味は、 え名は置いといて、 ここの土地から、 自分はサル もう、

と言う意味で した。

ると言うの しもそこ なくても。 ようか? びっくり したのでした。 先祖伝来の高貴な伝統を打ち捨てる事は、 ウスメさんは問います。 何故? 去ってゆく必要があ 何

ても良い のじゃありませんでしょうか?』 そんなにしなくても、 去って行くだなんて、

こう聞 シラヒケさんは、 やっぱり断言するのです。

うと思っ います』 ここを、 去ります。 アマテルカミの許 (もと) に行こ

ヒケ)の真意でした。この真意をすぐに理解したこのウスメさんは偉い のミチについ に真意を理解することが出来ました。アマテルカミの許に行って、 人ですね、 込みまして、 て一から勉強をし直すのだと。これが、 メさんは、 サルタヒコもこのウスメさんの人ならばと、 良い夫婦になります シラヒケ (サルタヒコ)の、 サルタヒコ(シラ その覚悟の強さ アメ

問 の要所は何処にあるのか、 さて、 います。 スがお有りな ウスメさんは、それならば、 のではあるまい これについても、 か? 二二キネさんの為し行くべき仕事 思いますのでした。 サルタヒコさんならアド そこ

にあるので 『それでは、 しょうか?』 キミ(ニニキネ) の最も為し行くべき大きな仕事は、

サルタヒコ(シラヒケ)は答えます。

ます。 とを強く願 『キミ (二三)キネ) タカチホ(霧島 ヒラキキ(開聞岳) います。 しだけの 力ではどうにもなりませんでした。ニニキネさん間岳)の山の噴火で、南部九州一帯が苦しんでい におわ やるべき大きな仕事はツクシ(九州)にあ しまして長く南九州 の守りを為 守りを為し行くこ。ニニキネさんに帯が苦しんでいま 1)

ます。 「さ」のうるおいを齎す本当のミチです。 イセのアマテルカミの許に馳せ参じて、 アメのミチを勉

ぐら 何なりと、すべてニニキネさんに全面協力させて戴きます』 の立派さ)でしかあり得ません。この真意をお解り下さい しは、由緒の古いナガタの生まれですが、最早ナカタカのワ(中 ま

の次第を二二キネさんに報告しますと、二二キネさんも大喜びです。 ウの花が咲き競っていまして、 今度はウ (卯の花) を折り

を放棄することを実行に移 (シラヒケ) じます。 さんは、 ヨロイサキ、 タケのイワクラ タケヤカガミの、 (岳山の祭祀

を試しに作ってみたサルタヒコに、 ました。 【詳細は未詳】そして、 ニニキネさんは イセキ

カクラ 才智の優れのウスメを気に入ったことで、 ノコのキミの初めになるので の名前を、ニニキネさんから頂い した。 ウスメを妻

対岸 とにあ ミツホのミヤ う て**、** (安曇川平野) 空白を生じま (守山市) ニニキネさんは名付けます 中心であった場所が、 の麓に仮りのミヤを建設しました。 そこで、 新たな中 サルタヒコの去り行くこ 心地と

次には、 も この後に、 ギ・ イサナミさんの所縁 タガ(多賀大社) (美濃) に至ります。 (捧げ) にお行きになります。 て参拝をなさいます。 そうし のミヤです。 したら、 、ヌサ(お祭りのなって代アマキミの)

र्वु る 子孫 使者となっ のお葬式のこと、 ま う スガの \mathcal{O} し前ごろの <でした。 まっ 下さ オホ のアマクニ マ スヒは使者を送りますが、 て使 重大犯罪です。 ムチの娘さんのタカテルヒメを娶っての定住です。 には、 8年経(た) オホ さんをも遣わ クニタマ(カナヤ わされま されま リの ナムチの慢心を質 つまり、 ことでした。タカミムスヒア 昔の ムチに懐柔されて が大歓迎をし (政治) に拠りま 内でも、 物語りが反映してのことで したが、 した。 アメワカヒコの事ですね。 っても帰って来ませんでした。 しますが、これもだめ 甘くて美味 またも、 マヒコの継子)は、遺体を引き取っ アメワカヒコは、 (ただ) すために、 死人と間違えるとは汚 オホナムチの話に飲み込まれ 初めに、 ます。 アチスキタカヒコネ 代のタカギさん オシホミミさん しまいます。 し矢を放たざるを得ませ マクワウリ その、 を皆にお した。 ホヒさんが使 アメ ア ホヒさん が中 ワカヒコ · (オホ いま わさ の子 が ア \mathcal{O}

困 チスキタカヒコネは良く似ていたのですね。これが「 りを収めたの じた。 た。 籠ずつのマクワウリのお土産でした。 ニニキネさんに随行 した。 C ます。 さん ウルリ別け得ずの如くに、 のオ これが元に かせます。 で間違い して来ていた

自然神) ではない とも言い 湖を掘り土を峰に上げ お陰を受けた人々が、 サ すれば、多くの田を開くことが出来る。 となる湖水の整備を命じに 般的です)。 なき名山です。 ラミのヤマ自体の土も天地 ア 山岳の さて、そう (西南) ハラミのヤ ざら 富士山頂からの展望で、裾野の新田開発を企画なさ カワクチ。 タケミナカタの子孫が案内してくれます。そうして、ハラミヤマ(富 (天地・ にと至ります。 に依頼するので ウツロヰをヰツ は、 って来て、 宇宙) に応 してますと、 マ キ (東) 井川川。 ネツ ミネもヤマも高く ミネに降り積もる雪はイケミツ(池水)になり溢 雲を分け進みまし 願うので (北西)は、 ニニキネさんは、 また、 の 9 (裾野)は広大な地域な 称号に (南) なるのでした。 フサハカリ(トホカミヱヒタメ)に対応 した。 の開発に集まって来てくれるのでした。 ・宇宙の何らかの マナカ。 0 ウツロヰは、 はシヒレウミ。 えるものであるとし T | (茨城県筑西市付近)での新田開発で そうしまして、 の里の田とな て、シナノ そこで、タチカラヲに用水の元 ツ(西)は、 富士8湖です 平野・建国の祖地) なります (東北) アワウミ(琵琶湖) ф キサ 心性があっても良い のスワに出まし ウツロヰ(ウツホ は (東南) 全国のどこにも並 また、 ました。 ニシ 灌漑さへ (現在は5湖が も合 , サマ 土をの W 8 7

20年に 回は灌漑施設の浚渫整備をするように カオリのミヤ リのミヤ ハラミのミヤ、 8代アマカミの 富士 ア Ш 南

オオヤマスミさんは、甲テルカミの遷都の後を、 した。 の時に、接待にあたったのがオオヤマスミさんの娘 意気投合のニニキネさんとアシッヒメさんでした。 シッヒメさんと契りを結ばれるのでした。 早速にご馳走を整えてニニキネさんを迎えます。 オオヤマスミさんが預かって のアシッヒメさん

ます。 を天地に報告するわけです。 不さんは、 、 ユキスキ(現在の大嘗祭) (8幡) ミクサタカラをミヤに納める事になります。その飾りはカクとヤ ワスキはウマシアシカイヒコチのカミのソヒカミを祭ります。 皆々拝み拝します。 です。 ニハリのミヤ(茨城県筑西市)にお戻りになって、 第一次の全国巡幸が大成功の内に終了したのでした。ニニキ ミクサタカラを納めての翌朝には、 のお祭りをなさいます。 アユキは、 アメトコタチの9ホシを祭りま ミクサタカラの授受 人々にも披露を そ

マには、 新婚生活もそこそこに、 コヤネは、 アマノコヤネは大役も終えて、 一人娘のヒトリヒメの入り婿に強く求められての結婚で リヒメが居るのでした。 夫のアマノコヤネは仕事に大忙しでした。 タケミカツチに見込まれたアマ カシマに暫く逗留します。 力 シ

リは、 設 父のオホナ は、 の新設工事を起こしながら巡り行く旅を続けます。北に向かったコ コモリ(3代目オオモノヌシ)は、 ヒタカミまで巡り行きます。 孫のコモリと会えて大喜びです。 ムチと見(まみ)え会うことが出来ました。老境のオホナ ヒタカミの最果てのヒスミにて、 さらに、 オホナムチは言います。 全国のあちこちに灌漑施 E ム祖

てから、 たくて、 『あなたのチチ(父)のクシヒコが、 トヨケ ここまで長らえて来ました』 もう相当に長年の月日が経ちました。 リ(生きながらに洞に入って亡くなる)でクニを守ろうと ヤマトヲヲコのミタマカミとし わたくしは、マゴに会

ナムチは、孫のコモリのために自分で料理をしてもてなす コモリも感激です。

ラミの して新田開発をなさいますのです』 山をトホカミヱヒタメに準えて、ヤフサの雪の灌漑用水の源 仕えるニニキネさまは、 とってもお偉いのです。

オオチ(老齢のオホナムチ)も、喜び答えます。

とも言えるかも ってきたが、そんな事には、 何代もの名君ともおなりのお方だ。 キミのニニキネさまは、 い考えだ。 全く気が付かなかったことだ。コケ(あ 我もアラタ よくよく (新田)をたくさ まことにお偉い しっ

言って、孫のコモリを国の境まで見送りに出るのでした。 い祖父と孫でした。 名残り

します。 します。 ながら巡り行きます。 コモリは、 コシ のクニに戻りあちこちに灌漑施設 海岸沿いに西へと、 (佐渡) に渡って、 サシヱ(7年か?)にもわたり精勤を あちこちに灌漑施設 灌漑施設 の新設 の新設工事を起の新設工事を起 の新設

知らせしよう。 ネさんに

告げます。 お行きになります コヤネをニハ (ご馳走のもてなし このため、 ヒメも待っています。 二二キネさんの方ですが、

重要な事を

思われる事がおありでし 東海道沿い それは、 用意を始めるのでした。 **ヰツサキ**(熱海市伊豆山) \mathcal{O} ミヤにとどめ置いて、 を用意して待っています。そこには、 目出度い事で、 イセへとお行きになる事になさいます。 アシツヒメは妊娠したことをニニキ ニニキネさんは、 さっそくアマテルカミに には、 オオヤマスミがミ 海沿 あ のア ア

ます。タキコヒメは、 ネさんに娶 ことを推薦し賛美します。ニニキネさんも、それ ニキネさんは言うのでした。 そこに、 ではなかったのでした。それで、 そこで、 (めあ) ニニキネさんが会ってみますと、 わせようと言うわけです。 のタキコヒメ(アマテルカミの娘さん) アシッヒメの姉のイワナガヒメを連れて、 やはり、 妹のアシツヒメも、 アシッヒメでないとと、 では、と思うのでした。 顔貌が鋭くて何ともタ が来たり ___=__=

んから、 リに追い返 の次第を聞 ····・···・··・。『♪\·ょろう事は、初めから解っていたオオヤマスミは、妻のタキコヒメを叱って自宅サカうのてした イワナガをみ前には出さなかったのだ』

それは、 ったので これを、 した。そこで、 母娘のタキコヒメとイワナガヒメは、恨み心頭に至ってしま シツヒメは 仇枕)があったからですよ。 召し使い 一夜限りに妊娠するなんておか 人に貶めの讒言を言わせるので しいと思っ たら、

ニキネさんにアタマクラの讒言を言うのでした。ニニキネさんは、 この召 そ つ たアシツヒメは、寝ざめにびっくりし ババニニキネさんに讒言を言う機会を窺がって シロコの旅屋を夜半にそっと出発してしまい シロコ(鈴鹿市白子、 で待ち受けていた従者がせき止め 比佐豆知神社)にて、 て後を追い掛け て戻され

サクラの樹を、 合さん のサクラウチ(サクラウシ)さんが、 た) まれての、この、 マテルカミはオウチミヤ(宮中)の東に植えました。そして、 イセのミチ(夫婦のミチ) このサクラの樹を植えます。 わたくしの の関係の良好さを測るモ アマテルカミに捧げた花 サクラは、 曾お Ť

ろがあるなら、 の子を産んだ時には、 ハナ (花) は萎み咲きませんよね。 の有るサクラです。サクラよ、 しの妊娠の真否は解るはずです。アタタネ(仇種) きっとハナ (花) でも、 もし、 て下さいね』 マサタネだったら、 あなたにここ

サクラに誓って、 ここに植えたのでした。

二二キネさんは召し使 三つ子のアナ(胎盤、 の子三人の三つ子です。その産褥の時に、不思議にも三様の花柄が浮か んだそうで の妊娠期間)を順調に経て、 サカオリのミヤに帰って行きましたアシツヒメは、12か月 不思議な事だと、 (梅) 人の讒言に惑わされていま の花、 ニニキネさんに報告しますので はアヤをなしたのでした。 6月の1日に、 サクラ (桜)の花、 三つ子を産みました。 したままで、

こころに凝り固まったままでした。

アシツヒメは、 もはや

ロヤを建てて、周りに沢山の柴木を積み上げました。そしてアシツヒそこで、死のうと考えたのでした。ハラミのヤマの裾野に出口のない 生きる希望も無いと思い詰めるのでし 中に入って、 までることです』 火を付け て誓うのです。

達も驚い を一人ずつ助け出 ハラミのヤマ コたちを、 コシ くれるのでした。その騒ぎを聞き付けた付近の人 山頂に住むタツは、急いで水を吐きかけて、 火を消してヒメを助け出します。 (輿) (皇子) たちは、 に乗せてサカオリのミヤに送り届け 熱がって苦しみます。 人々 =

ことが判明 の開花はと 証明 シロコのサクラの樹は、三つ子のミコを産んだ日に咲い ても珍 した。 した開花だったと言えましょう。 6月1日(現在の7月中旬)のことですから、 事です。 アシッヒメの誓 マサタネで Ħ た

もはや、 讒言による貶めは、 た二二キネさんの許に、 アシッヒメさんの可哀そうなお気持ち、 底が割れたので ふたつの、 した。 証明が届きます。 嘘偽りの讒言 その不憫を思

に送っても、 マ (静岡県清水区興津) をかぶって一言もなしでした。 アシッヒメは拗ねてしまって返事を出しませんでした。 の浜に着くのでしたが、 急いで、 カモフネ (帆のある高速船)で、 使いをサカオリのミヤ

おきつもは にはよれとも ワカのウタを詠んでこころを解かすことにしました。

さねとこも あたわぬかもよ

おきつちとりよ

労があったかと言う、 った の強さがなくては、 アシッヒメさんで ウタに恨み のウタを、 の涙がとけおちたので オキヒコ【詳細未詳】 した、 ことでした。 枯れ行くのみです。 との覚悟ですね、 また、 苦労が、 に届けさせます。 ニニキネさんもどれ程のお気苦 た。嘘の讒言で大いに被害を被 大切なのは。 どうやっても、 ヒトを強くさせますです。 アシッヒメは、 適心

かくもと言うほどの事でした。 走りオキツの られなくなりました。 シ (輿) シツヒメさんは、 の用意もほっておいて、 ハマにまで、 ニニキネさんのお気持ちが解ったので、 フスマを被っている心境ではないです。 走りどうしでした。 らしでした。ニニキネさんのお喜びは自分の足で走り出して富士山の裾野を 従者のコ 居ても

とになります カタの子孫の人もご馳走を用意するのでした。 オキツの ablaから、 オオヤマスミは迎えに出ますし、 二つのみ輿を並べて、 サカオリのオオミヤに行 また、 スワのタケミ

つ ますので のミヤ ハラミのミヤ)にお入りになったニニキネさんはお

前は、 「以前に、 これに因 胎盤)にアヤ サクラ、 (ちな) (模様)を映したのであったようです。 ウの三つの花です。これが、 んで名付けましょう。 の3種類をかざして、 コシからミヲまで行きま 不思議にもアナ の分層

(実名) ロヤ します。 から、初めに出た子は、 ホノアカリです。 イミナ

ツギネです。 ヒコホオテミ(ホホテミ)です。ノススミです。イミナ(実名)は ノススミです。 はサクラギです。 イミナ(実名) は

シッヒメもその苦労に応えたいと思います。 誓いどおりにシロコのサクラの コノ ハナサクヤヒメと讃えま サカオリ(富士山南麓) ナ 花 にニニキネさんは滞 しよう』 三つ子を産ん は絶えずに咲

11/2016 59 / 77 ページ (C) 池田 満

織る フタヱです コヤ ノタヱの織物です のカミさまだと、 アマテルカミの時と同様に 三つ子

カニの く乞うの サクラギをスセリさんと主に呼ぶようになります。 (おそら 称号と、 子孫の代々 の祖先伝来のシラヒケ薬の 複雑な構成 大きく 苦し なります。 男の子のうちの次男のサクラギ のシラヒケの称号。サルタヒコがミヲを去って行ってから、 ニニキネさんも、 5 だサクラギさんがこのミヤに入ってからのシラヒケ になりま スセリ の重なりが生じるのでした) ります。 タヒコの去ったシラヒケのミヤを強 サクラギさんを、 しての処方は、 サクラギさんは、 スセリクサ(芹 成長する際に (シラヒケの称号は、 コタチさんの直系の なりましたので、 ミヲのサ スセリさんとも を薬とし タミのた カニの ルタヒ

/\ ラミ(富士山 サカオリのミヤ (ハラミのミヤ) においでのニニキネさんは、 時に、

はやがて溶け出て田水になります。農業用水を保存し (富士 以前に噴火 8峰のそれ ことですね。 新たに讃えたいと思います。 イケに住むタツのこと、 ぞれにヰユキ した事のあるこの山の中心は、今は休んでいます。それ よう。 火山の活動を、 (冠雪) がずっと長くあるのです。 また、 トヨ井ユキヤマ 司るタッタのカミの事があ 休ませて いる働きは、 の新名称をハラミ ている山とし 山頂

は戯れ遊 チョミクサのラ はミヤ るようです。 ナ(雌花)を投げ遣(や)りますと、ミヤコトコトリ(イワツバメ)が飛び回っています。こ

態を ます 長寿を願う意味合いです。 コモリ タスキのア してマツリ これも、 (3代目オオモノヌシ) しく暮らせるようになっています。 (政治) (鳥襷文様) 衣服 を執 のデザインに合わせて取り (と) る指標に と名付けま は、 チヨミクサの じょう』 この状 て置き

ミツ **稔りの色は、** に織り上 租税) ヤマ に特別 ハト色です。 のチカラが漲 ハトのミハと名付け これもまたアヤ (みなぎ) 文

が着用なさる衣服になります。 ハトのミハは、オオナメのマ 大嘗祭用の衣服です。 ツリ(祭り)の時に、

形はヨメナに似ています。 【ハオナの詳細は未詳】さらに、とても苦いため、 得ないでいます。 【詳細は未詳】。モクサ【詳細は未詳】カフロハ【詳細は未詳】。 の長寿)を得る薬草です。 を増す効果があり、 長寿を得る薬草です。 根の形はヒト(人間) 花は顔の形に似ています。 老齢による衰えが若さを取り戻 若菜も同様に薬効 の形に似ています。 タミ(一般国民) の詳細は未詳】 があります。 【詳細は未詳】

土産物と です。二二キネさんに捧げまして、 のアヤ(文様)に織りなしたので ヨミクサの絵をココリ コ」を使っての「コヱのネ」のクニという事にもなりました。この成 ニキネさんに捧げてくれました。この事から、国名に、 ワのコ (蚕) して使わ 「コヱのネ」にまで来たコモリ のイト(糸)を、 したのでした。 ヒメさんに捧げました。 した。これがトリタスキのアヤ(文様) また、 ココリヒメが得てミハ (3代オオモノヌシ)は、 それで、 ハハ(ウケステメ) ココリヒメは布 蚕のクワの じに チ

蚕の「コヱクニ」 教えて、 を祭らせて、ヰクラを整えます。ミハの指しを作って裁ち縫い のアサヒメに、 に至ります。 コモリ(3代目オオモノヌシ) 人々にもこのやり方を教えるのでした。ヲコタマ その地域は衣服作りが盛んになりました。 良いクワ コカイ のカミとも、 のやり方の技術の高度な方法を教えました。アサヒメ (蚕飼い)から、 が植えられて 賞賛され、 は、タガ キヌ(絹)に織りなして、 ヲコのサトとも呼ば いました。 (滋賀県多賀町、 点点付きの そのツエさんの妻 多賀大社 れる事にの「コ」の のミチを **匕**口) さら

なコネ(細かな根か?) りました。ミクサとは、 寒さに冷えて、お腹痛を起こして苦しんでおられた際に、コモリはミク 薬草の事と言いますと、二二キネさんが山に登っての時のことでした (チヨミクサか? ミクサの薬草は、 を勧めました。 5葉の姿で、 マシワル ウスギ【詳細は未詳】。 アキ (秋) ヨコシ(脾臓?、 (養育) に生育するモノが一番優れ にはアツキ これもヒト ヒトミクサ【詳細は未詳】。 ニニキネさんの腹痛はこれで収ま ます。 タミの位置) クキ(茎)は一本立ち のような実を結 に似てい ネ (根)

る ハラミヤマ (腹を夕して、結果を齎

まえ ミヤ あると言えまし 青年時代 ラミのミヤこそ、世に並び ったので にヒタカミに留学にお行きになられました。 マテルカミは、 テルカミは、 ヰツカミとも言われるようになっ マテルカミは「ケタツホのフミ」につ シラとなさった、 た。 もありました。 初めてのミヤ ニニキネさんに (アマツミヤ、 なき優れた素晴ら 幾つもの素晴らし 歴史の重みが、 マカミのイサナギさん 「オキのツホ 8代アマカミの 宮城県涌谷町、 「ハラのヲキミ」の称号をお を営まれま (琵琶湖 います、 ハラミにあることを踏 い場所のナカハシラで いて学ばれた アマテル 黄金 山神社) ナミさん カタタケ んのでし この、 ミヤ 叡

うに、 たわけ れは、 直に反応 な事ですので、 機械を扱える能力が無くては少しもどうってことは認めてはもらえま ける力持ちの自慢が世間に通ったのでしたが、 へもがカミ 人々とは、 そういうことは、 の新規事業に 昔に恩を戴 現代に例えて言うと、 つまり、 明瞭な別れぶりです。 ニニキネさんの新田開発のよる、 心します。 身ぶり手ぶりさへ てくるのは の賞賛の意味もあり)と讃える事になりました。 参画し ニニキネさんを慕う人々と、 ニニキネさんが、 はなから) 実体の潤い て豊かな生活を送れるようになりま て大きな力を発揮し 30ススにマサカキの樹を植え替えた頃 28000年(マサカキのコヨミでの、 シワカミのホツマ(東国の意もあり、 もが違っ リの住民達は、 維持運営の能力が必要となったのでし から別れた価値観を持った峻別 〇〇年前までは2〇〇 の恵みについ 富士山 シワカミの、 てくるのでした。 価値感の革命的な変革であっ 群れ集まって、 山麓の新田開発に取り組む て、タミ(一般国民)は正 今や、 はない旧来保身の 水際の区別 gの餅を持ち上 ==+ び さ) ンや超大型 です のよう もさ のよ

と、二二キネさんのミコのお二人を中心に、重臣を招集します。 ヒタカミのミヤコにますオシホミミさんは、 へますと、 からのお呼

ホミミさんはおっし オシホミミさんが、 います。 後の事を託するための招集で

たって下さ なろうと います ここに、 後は、 ミヤ もオイ あなた方二人が並んで、 のナ (名称) (老い)て、 を授けます んで、アマカミの任ヒタル(死去)時

アニ (兄) (弟) の二二キネはハラ・ヲキミと称しなさい。 のホノアカリはヤマト・アスカ・ ヲキミと称 しなさい

ミテ 守り治めてゆきなさい。 亦 カミヱヒタメや、 (仲良く)なしつつ、 オコロのように、 ヒ(太陽)がタミ(国民)を恵み潤すように、 共に卫(兄)とト(弟) が

くれぐれも、言っておきます。

です。 は、タミから慕われる対象であってこそ、 クニタミ(一般国民)を我がモノのように扱ってはなりません。キミ 初めて存在に価値が生じる

ヨケ す \mathcal{O} あ 締りの根っ子として、 なたたち、二人のそれぞれのミヤの運営が上手く行くようにと、 わたくしは、 リ(生きながらに、 ミマカリ(崩御) ハコネと名付けてそこに入ろうと思います。 後の世も守ろうと念願 し後にも、 クニを守ろうと思います。 しての死去)を行 両翼

カミのお作りになられたカガミの精神はことの他に重要なものです。 こそ、フタココロ(2心)の生じる事を防ぐことが出来ます。 キミとは、そもそも何であるべきか? 「カ」にこそ愛(め)でてゆくべきですね。 「ネで守り続けて行きます」 偉大なるアマテルカミのヒツギのミコとして、これからもず 「カ」と「ガ」この二つ 「ガ」を無くし尽くし アマテル \tilde{o} て内

そして、 になるのでした。や (神奈川県箱根町、 こうして、 ヰツ・ヲハシリの オシホミミさんは、ご遺言をお述べになられるのでした。 箱根神社) ハコネカミとしてお祭りをする事になります。の山に洞穴を掘らせて、そこにおん自らお入り

開発で潤った分があるのでした。 からの特別充当金で補てんするようにしました。 元の旧来の耕作地のタミが不利益を被らないように裁定を下しました。 のヲキミへの信望が強まりま して、この後に、フタタミハラヲキミ(二二キネ)は、 はらから」 新田開発側のタミに発生する不利益は、 フタタミ(新旧の国民) の口に行き交うようになりまし オシホミミさんのハコネカミを篤くお祭 した。これで、 これにより、 の争いが生じた場合には、 新旧の国民の両方に、 みんな同胞だとの意識か ハラのミヤ(ニニキネ) ハラのミヤには、

コネカミを祭ります。 それ ŧ 3 年間 の篤 いお祭りで

盆地 盆地 ミさん 沼や野の土を、 **ब** でなく ホ 如 に田水の供給元 水理を図って、 開発を開始なさるので が即位をしたミヤです。 こうか? 比叡 西の方向の盆地も見えます。 ニニキネさんは思われるので にお登りになります。 オキツホの峰に上げて として活用すれば良い 沼や野になっている場所を新田に開発せよ、 した。 た。 その後ろに高く聳(そび)えて オキツホ ヤマクイにお命じになります。 マカミのイサナギさんとイサナ ここに、 (大津市坂本、 そうしますと、 だから、と教えになられ オオヒノ 今後 ニニキネさんは京都 クニの運営をど ヤマ 日吉大社) 東の方向だ (富士山) いるオキ

そうしまして 灌漑事業を起こ うになりま 圃に導かれて しま はれるように ツワケテ、 ヤ マクイ さんの京都盆地の開発は、 ナガス なります。 荒れ土地を活力ある田畑に作り替えたのでした。 しますママア オキツホ 現在の京都市の深泥池です。 ヒアのヤマから湧きだした水は、 に実ります。 の峰はヒト リイケの、 セキイレテ ヒトエタ (1枝) エタのことから、 中心的な池をミソロ池と言うよ ニシイワヤ、 (堰を作りて、 また他にも多く にもなりなんと ヒヱのヤマ 池を潤し、 導水しま ムヰシナ ਭੋ

は大きなもので (葵葉) もともと、洪水の時には冠水してしまう土地を田畑に作り替えた功績 のミツハメの2神分割祭祀をしました。ホのカクツチは、 ニニキネさんは、 自然神祭祀での災害の減災 に例えます。 しようとなさいます。雷の構成を要素に別け した。さて、 ミツのミツハメはカツラ(桂) 災害の減災を図るために自然神を祭ってコン 一端大水が出ると、 の取り組みを、 被害は甚大になります イセのアマテル に例えます アオ カミ

特段にお褒めになりました。

カツチ (雷) 『あめ ですね。この功績は大きなものです。例えれば、 を二つの要素に分けて別神を祭祀する事で向上を為し遂 大きな功績とも言えま まつたき(完全な自然循環) これからは、 しよう。 ワケ 国祖クニトコタ イカツチの を図るため

カミは、 「ワケイカツチ」 のヲシテを、 敷を田圃に作りました。

ムが付きました。

ところが、

アスカキミのおキサキさんのスガタ

新田開発をおこなわせます イケ(広沢池、京都市嵯峨野)をオオタに掘らせてこの 京都盆地の開発をさらに促進展開させてゆきます。

こうして、ニハ リのミヤのホツマ います。 つのミヤを建てて推進してきた土地改良による新田開 クニ(関東地方) しぶりは全国に広まって行きまし の新生活風習として、 た。これを、 ホツ

島合いに (里) 北はツガルに、 全国のあまねくにも、 の田水を得ます。また、 カツウオ(ニシン)が沢 いる土地に施しますと、 沼を掘り上げて田水を生じさせました。 普及していった「ホツマ」振りでした。 ツガル 田畑の力が蘇えります。 れますので、 の北のカツシマ この魚を魚肥と 770000 (北海道)と のオカ \mathcal{O}

カクヤマ ほぼ中央にア ヤマ 積み上げます 川)を掘り土を上げて田水の元としました。また、アスカカワの河川 ア 井田 (四国) スカキミは、 (天の香具山) ヤネは、 ノメヤマ では、 そし 自国のカスガ を浚渫し ミカサヤ フキさん マ(富士山)の謂れをアスカの地に遷します。 市天山) (イフキヌシの子孫)が、 マとしまして田水を得る ハセカワ(初瀬川) (奈良) の地で土地改良を行います。 この土をト を積み上げて田水を得たのでした。 フヒのオカ(三笠山) やアスカカワ のでした。 松山平野の 飛

びは起こさぬようにと、 失ってゆくことになった事件がありました。その、 ます』 の、アスカカワの謂れを捨てて忘却してしまおうとするに等し イサメ(心を覚めさせる) 一種象徴的な場所だと思います。 ミソギをするために掘ったアスカカワでし てクレた事を、 あざけり世の信望を 判断違いを、 それは、 また再 と思

このように、 アスカキミ(ホノアカリ)はこれを聞き入れる事は してしまうアスカキミでした。 スガタヒメさんがイサメを申 し上げるので しませんで した。 した。

子が出来な オウナ(女性)の政治関与は、 女性はコ(子供) ナンチはツマにあたい の夕(田圃)が仕事ではないか 3夕(田圃)が仕事ではないか。それ昔から良くないことだと言われてい

に追い の即日に離縁 返 菅田神社、 トヨマトさんの娘さんれ、菅田姫神社、奈良

した。アスカカワ河川敷の田圃化は、

をハラ・アサマ なさいます。 こうして、 ここにニニキネさんはユフ 二キネさんに信頼を寄せるのでした。 マウラの子孫は、 全国に広まって行った「ホツマ」振りでした。 ミヤと言いま の彩色で彩りを付けたカケハシ(階段・廊下 で飾りを付けたタマを飾った、 (富士山南麓) 華麗さの中に タチハナ した。その装飾には、 に新たに新宮殿を造営します。 の土地で新田開発をします。 実用を重んじるユフ ノキミとも代々称されてゆきます。 のタヒ(足袋) (日本古種の蜜柑) を植える田覧発をします。オノ(厚 ウテナ 優美さを施 のタヒを見て を付けて登場 ニーキネさ しました。 を据えま このミヤ です。

ますので1 \subset みこころを、 ハラ・アサマミヤに庭に住むツルは、 サカキ暦での計数)にもわたり、 土地改良による新田開発は成 (葉)を食べますので、 〇〇〇年は寿命がありそうです。 (うらない) は、 尽して努力するミマ 〇〇〇〇年の寿命がありそうです。 ミツホ 功を収めまして、 の湧き来るか、 チヨミクサの根を濯い (離れる・放・不合) (租税) イケに住むカメは、 の上納は豊かでよく、100000年 湧き来ない チョミ で食べ のか?

11/2016 66 / 77 ページ (C) 池田 満

ホ コミコ \mathcal{O}

3 ウ ヱ (23年) ウツキ (4月) ハ ヒ ハ ツ

たのでした。それは、新たに、ミヤ(首の称号を名乗る事になったニニキネさん した。

・ます。 します ミヤと命名され その、 町)さんに造営をお任せ ニニキネさん(ワケイカツ 遷都の実行 おそらく たミヤコは、 の前 湖東であ T 7 2 3 です。ミツホのミヤの鳴神社、滋賀県近 しようと をなさ

71 [ます。 マテル コネ チチヒメさんは、 さんは、 朝夕にア になられましたのでしのオシホミミさんの、 7 カミにお仕えします。 チチヒメさんも心 日 残され え n 0 がす。 す

コ を捧げ ヨミで た後に、 のミヤ の後に、 イセに御幸になりました。 コネにお参りをなさいま 0年(マサカキ した。 ヌの

4 ネさん \mathcal{O} イセでは あ 代アマカミを引き継ぐことになったイ るシラ した。この後も重要な土地とし 新首都 アマテルカミにもチチヒメさんにも、 そして、 のミツホのミヤに遷都をする事になりました。 ミツホのミヤへの遷都を報告申し上げ (サルタヒコ) 全面的に (日吉大社)や、 コタチの建国 位置 IJ 礼拝を捧げ ヱのミコト サナミも、 は長く続きました。 |の土地と 湖岸に るニニキ のミヤコ ま 即 0 な

0 も有望な現在地考証地の場所です。 現生也等 E 引っ琵琶湖大橋の東端の、 ? ニニキネさんの肩には のミ 守 さて 大きな 地 があ

っせます リが て担当させる事に トミとして補佐をさせます。 に留め置 て行った事から、 こします。 いてマツリ 長男の (政治) ハラにはミ A また、 メ にはミソクヒトは

0 処方を得 ワの サクラギさん 次男の (ウッキネ) 0 スセリ て死にそうに が受け継ぐ 2 タア (サクラ た時に、 サルタヒコ シラヒケ 0 力 \mathcal{O} ためのヤマ

のところで居てま コ ニキネさん です が建てられてここに移ります。 (疱瘡 ております。 イミナ Щ 国民の幸せをどう作っ (政治)には特に大きな意味 ような病気) の返答は NO でした。 オオツ その故に、 のサクラギ まことな) が直った経緯があるため、 ウカワ 父の は、 コとも呼 ニニキネに言上 ウツキネは思うの かが大切な事であるこ 次男のサクラギは れます。 ウカワの ここそが キネの 0 ります。

 \dot{O}

を作 は中国 ・ます。 々に豊かさをもたらして 幸になります。 が目立つようになって来 ゆきます。 セキ

(有る) と言う名前 な 丰 が無い \mathcal{O}

人は答えます。 オロチです。

因

昔、

クニカミの

アカツチさん

11/2016 68 / 77 ページ (C) 池田 満

(きこり メさんの許に集まるオロチたちは、 の木を焼いてオロチたちの られまし つばかりになってしまいま テ きの アキです』 治まり る隙をな 々に害を

ま らな ニキネ が善案を お示 なります。 さんは、 いるだけでは始

= 0.1E 漑用 + 水も豊 ギ 0 を植える事に りまし を進めますと、 しなさい 山々には樹木が生い 、茂って 田

なるの 地 巡 り \mathcal{O} 田を拓 でした。 て ました。 チのア ま す。 マキミ)さんは、 そして、 こうして、 あちらこちらにイセキを築き、 後にミツホ ヤマカケ のミヤにお戻り (山陰地方)

言う良い ツクシ 九州 きさがポ ミに任じ メヒト 当に上 ま 豊か した。 ニニキネさんは三男のウツキネを、 , (九州) コにとどめます ま 長兄 な良い年が3 5 って来ま さんも問題点を理解しましたので、ウツキネと共にミツホ 導き方をする事が出来る 次代 ントになります。 の巡行には未だ時期が熟し は メヒト から、 そし のアマキミを選んで行く したもの して 0 3 した。 さんに挨拶方々 0 長兄の J 0 父ニニキネさんに相談 (皇子) 0年 さて、三男のウツキネさんは、 ニニキネさんは、 ムメヒトをヲキミ(アマキミ代理) (マサカキ暦での計数) の行幸が望ま か? サクラギさん 事の次第を相談に行きました。 コモリ ないと考えるの おん自ら九州巡幸を決断 は ユキに出発なさい します。 (そう言う事 のではあるま (3代オオモノ た。こう 。そして、 つヲヲ・ 続きます でした。 クシヲキ りました 今回 か? のミ

(為す)。 コ

7 キネ、スセリ(サクラデント、・リ)諸共にここ(ミツホ)に留まりマ ツ ツリ (敦賀) に行きておさめ

(ニハ 3 \mathcal{O} 代理の マキミは、 を治める役 就 尽力をなさいまし 子孫なのでした。 てきます。ワ て 目 乗って来ま を仰せつかるのでした。 のミヤコにお戻りに メヒトさんは、 また、 ハテカミ の間にほぼ九州 なりました。 シワカミ 部の 来ますと、南 マキミ(ニニキネ) タカミさんは 一西 行幸の求めが引っ のホツマ のカミか ワケ É 三 三 三 は ヤマ

力を注 構え した。 さて 大きな政治的 キネを貶めようと罠を仕掛け を賜 サルタヒコの去って行 次男と三男 ニニキネさんの政治的判断を理解できなかったサクラギさ いるの 0 クラギさんは、 判断 健康を増進する事に重きを置 サクラギさんにとりまして 仲の問題のことを見てみましょう。 ウカワ ったあとの湖国の のミヤを賜った次男のサクラギさん \mathcal{O} マツリ 後の ったので、 「海幸 (政治) タヒコ をどう \mathcal{O} 力

まう 違う趣味を楽しもうでは 釣針の道糸を細 りに不慣れな弟 サクラギは、 兄サクラギの思惑の通り りとの くなったヨレ 道具の ウツキネ \mathcal{O} の話を持ち掛けます。 を付けて渡しました。 釣針を失くし わざと切れ の道糸の悪 たウツ

サクラギは受け取 これをヲシテ時代での古語で「 、一点張り 戻せると言うのでしょう です。 。でも、 魚『元 か取の ハ ? 5 無理な てし縁 ま起 **つ** の ハを

手配をするの ヨう つけま そこで、 キネさんを、 社会的な認知こそが必要である は、 た事を、 と訳を訊くの 次 社会的な影響力の でした。 ウタが 九州のフ のヲチに説明し た ウツキネさん (雁) がワナに掛 じました。 釣り 針 まさに たワ の道糸 ら解 の事 0 を添え よう 日 し決 たレ てつ ょ

はるへらや みちひのたまはシホツツが めなしかたあみには、次のウタが記されていま

ハテのかんかせ

玉 日れが事ウ 3 さ シカ次 3 のモ期 ワカミツ(若水)を汲むため (天皇陛下) ウツキネさんは幾 浜に向 、鹿児島神宮) は立派で いたの った風習で の許を訪 と目され るウツ そう キが マリ 明治以前にも全 巡らされ (水汲 大晦 み外 で日夜の テ 、カネツサ

キネさんであることが判ったの て招き入 っでした。

での ワを、い 神宮) ます れたの 力 ウ テ カミは、 の保管人が到着 依怙地は強まるば 5 たこと。 ウカワ クラ ミヤを頂戴したい ったこと。 シラヒケカミ の任命を得ても、さらに次兄の と言いまして 0 2 テカミに説明 イミナのウ ますと とも スセリクサ (こじ) るよう 事が ウカ あ

フ はる ホ たまは

タハテ かんかせ った魚網)

ミカ マ(海・ アラ 引き網漁を提案します。 釣り針を取 ŋ 0

とウタ

ノフタの

このウタを見た

/\

で取り戻そうと言い 実現の可能性は少ない メナシアミの漁を主張 れま

戻 工 に任じま

魚を獲り ノます その中にオオタ いました。 に進み出でまし ケス (大鯛) が (生け簀) クチ

ウツキネさんはおっ です。 同じ類 て言うのです。 ミケ 「われはウオ (食物)

三角形の文様のミツヤ モチ)は釣り針を咥(くわ)えて 口口 (鱗) シ に、 ようにしましょう。 ウオキミ(魚のキミ) (印し) もあります。ウロコ (鱗) のことがあります。 の姿のタイは尊いものです。 のさまを映してウロコと為してい シルシです。 たような魚ですから尊くありませ ミツ (たた) えましょう。 7 (グチ・ (山) を映す るのですね。

ヒメの讃え名をあげましょう』 釣り針を取り戻し得たのは アカ メの 功績が大です。 T カメ

にする意味で、 次兄のサクラギ(スセリ)さんに返却をします。 を得ることが 糸を新 北部の ウ 人物です。 ツキネ が有力者の (ホホテミ) さんは、 た。 この喜びは、驚きにも似ていたでさんは、取り戻しの困難であったチ たで しよう

シガのカミは、 のおミヤ クイと共に、サクラギさんに会うためにウカワのミヤに行きまりて、金り金近去の詳細な样談をしました。そして、シガのカ 天孫神社)まで行きます。 (政庁)です。ここで、京都盆地開発で ワニフネ(帆を備えていないフネ) シノミヤは、 ウツキネ(ホホテミ) の有力なヤマクイ でシノミヤ (大津

ウカワ のミヤに行きますと、サクラギ 一応面会が出来ました。そこで、 (スセリ) ヤマ クイは返 イは返却の口上なっている と述べ 出て来 を述

貴方様からお借りしてそして海の魚に取られてしまったことが し上げる次第です』 そこで、 昔の事でした。我が慕うキミのサクラギさんがチ(釣 釣り針を取り 戻し て私共が 1) お返り

ギ(スセリ) り針をシガ のカミが、 は奪うように受け取るのでした。 恭 (うやうや) しく捧げ て返却しますと、

我がチ(釣り針)である

つつ立ち去ろうとします。 シガ 0 カミは、 袖を掴んで訊きた

貴方様の貴重な釣り (本当にこんなにも、 でしたのですか?)」 みすぼら 11 釣 り針が、 問題に な 0

す ガの 釣りの達人 つ当たり カミが にとっ 聞き質 します ては、 しましたらば、 お見通しな サクラギさん のですね。 サクラギは苦 は堪 えて くる

。故なく、わたくしを何故に呪うのか?

ガの カミは みずから返却に来るの 釣り事情に詳 が筋であろうに、 通の常識をも って、 変なことだり さらに詰問を

償をもつ 『そういう風に言れる こん ない な最低限度の常識を知らなかったとしたら、 に言わ べきことだと思い れましたらば、先ず 変えて貸す事があ ったらとしたら ます。 0 ります。 しょうがありません。 て釣り 釣り人の風上にも 釣りに詳し 1

在風には土下 また、 仮に、この ? 常識を知っていての事でありましたら、 て謝罪をするべきだと思い 、ます」 コ 7

クラギさん を漕ぎい出 逃げ去ろうとするの (琵琶湖) さて、 手を振り クラギさん のでした。 フネを降りて湖 これを聞 します。 の手を取 シガの 水は引 が(ほど) 助けを求めるの フネに辿り着きまして乗り込みました。 1 いてゆくのです。それで、シガのカミそしてヒ(干)のタマを投げました。 カミは、 です。 0 て取り 底を走り逃げます。ヤマク て逃げてゆきます。そこで、 尚更に怒り サクラギさんのフネを追い掛け て来るので 押さえようとしますが のサクラギさんでし すると、 した。 シガのカミは歩き走って 湖水は溢 イも追い V `` サクラギ シガ のカミはもう すると、 たサクラ て別のフネ て漕ぎい さんはそ て来 てサ ウミ

を続けてカテ は長く永遠に弟ウツキネの てそし シガの カワ 助けの向かい カミも、ヤ のミヤ を受けます」 マ に送り届け クイも、 フネ(舟)

の次第が進められ 0 あ n ゥ

V と宣言します。 は思う事があ タケスミヒ 行きま \mathcal{O} ます 人々を集めて、 、『わが妻を定めたウツキネ(ホホテ \exists

お思 支度はお任せ下 され なた様 りま いし 来臨を はあるまいか、と思います。ゞすなわち、ここ九州にてはアマを願った際にはツクシ・ヲキミ どうぞ、すべているこの称号が付いている。 てて与

兄ホスいた。 たせます。 トヨスミヒコは、 なた様の カコシ もちろん、 になられるのがよろし召されました事が御座 7 になられるのがよろしいる合されました事が御座いまの母上はニニキネさまに一 7 ミキサキになってお入りになります。 若水を汲みに行 鹿児島神宮) って青年のウツキネさん 笠か? ようか』 の思 りま ム他を見し タ メ のにマ 召か \mathcal{O}

はなむこにみつ かみからしもゑみかのひの かわみつあひて

まか州 \mathcal{O} 2 た 3 之 人 \mathcal{O} を歌

ホホ テミ ツキネ) さんは、 ・セキ 新田開発を九州の り組みます。 先に、 児島神宮 32地方 2 の事 一に展開 (P ま 1) のす ŧ 知ホ をし らホ せってこチ頼

 \mathcal{O} \mathcal{O} \mathcal{O} き飾 本居 うミツ 後 全土にも流行 シダ 未詳】 \mathcal{O} を願う ま 1) ま、祭宇たハり佐 日 きます ユ 工 ク ユ 新ウ で飾の

州の 健磐龍尊 改良をおこなわせま(北海道)の沖合に 阿 と奉りまし と変貌させる事 分な豊かさが得ら -ミヤを建 (政治) 壤改良 あ ホテミさんは、 て土地改良事業に尽力します。 ホホテミさんは、 をなさっ 有効であることを見出て移り農業改良に取り コシ ウ 山獲れるカ 7 アソに6 いましたが (霧島市 ソヒメ ウオ イワタツは、 カケロフ た 00年 6 をウチキサ (ニシン) 鹿児島神宮) 「 され ます コ キになさい パキ暦で ま 地は土 題 =

0 肥料が有効であ が実現 ることを見出されます。 できまし 0 た 0 \mathcal{O} 7 サカ スヤ (糟屋) 暦で ミさん \mathcal{O} が られまい、

か毎 つ日 取 まの で 順 のみ 次にか 、長年なり、ための ホ がを重ね 6 ホ 0000年)の間にも、休まれる事できさんは巡幸を重ねてゆかれまし、ホホテミさんの来臨を求める要請 T ホネ たホホテミさん ヨタマヒ た。そう お子さんでおういろい こた。これに ウ のお

トヨタマ 歓待をさせて頂きた ヒメにフミ(手紙)で問います。 3 キミ (ホホテミさん) 帰郷は暫くしませ ハテカミさん お招きし トヨタ 一不興か? ヒメは返書に言 ソミさんはウィミヤにおい

『ご不興だな く気が付いたのでした。そんな事では御座いませ ん

お仕事を押 0 はあっ ても子供が長年出来な からで (鵜戸神宮) 恐縮な事でありました。 へのお籠りは有り難 でのことは、 ホホテミさまに忙殺に極まのことは、お忙しさが余り

ミさまには深く感謝を申 ツ 『を申し上げるばかりです』 クシのタミの幸せを強く願 0 て下さいます、 ホホテ

77 / 77 ページ 11/2016 (C) 池田 満